

平成22年度 三番瀬再生事業の方向性について（案）

第1節 干潟・浅海域

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
1 干潟的環境(干出域等)形成の検討・試験 2 淡水導入の検討・試験 【地域づくり推進課・検討グループ】	三番瀬では、埋立てによる干潟の減少や地盤高の低下による浅海域化の進行、汽水的な環境の場の減少等、自然環境が単調化しています。 そこで、市川市塩浜2丁目護岸前面における干潟的環境(干出域等)形成の試験案や他の場所での干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入の試験計画の検討を進めます。	18年度 (事業名) 三番瀬再生実現化推進事業	決算額 11,482 千円
		19年度 (事業名) 三番瀬再生実現化推進事業	決算額 8,947 千円
(事業計画における5か年の目標) 1 干潟的環境(干出域等)形成の検討・試験の実施 2 淡水導入の検討・試験の実施		20年度 (事業名) 三番瀬再生実現化推進事業	決算見込額 9,653 千円
		実施計画 現在残る干潟的環境を保全しつつ、三番瀬の多様な環境再生を試みるため、試験の目標を明確にしつつ、引き続き事前環境調査等を実施しながら、干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入の試験計画及びモニタリング計画を策定します。 その際、三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会の意見を踏まえるとともに、漁業者、関係機関等との協議等を進めます。 1 三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会の開催 2 試験計画及びモニタリング計画の策定 3 事前環境調査等の実施(春季・夏季・秋季等) 4 漁業者、関係機関等との協議等	
		事業の実施結果・評価 学識経験者、漁業者、地元住民、環境保護団体等からなる検討委員会を5回開催し、干潟的環境形成及び淡水導入に係る試験計画案、モニタリング計画案を検討しました。また、事前環境調査を実施するとともに、試験実施に伴う周辺環境への定性的な影響を検討しました。 委員会での検討を基に、干潟的環境形成及び淡水導入に係る試験計画原案を作成し、21年度の実施について検討しましたが、具体的な試験実施の計画策定までには至りませんでした。	
		21年度 (事業名) 三番瀬再生実現化推進事業	当初予算額 4,300 千円
		(事業名) 三番瀬再生実現化試験事業	当初予算額 一千円
		実施計画 三番瀬再生会議(評価委員会の検討結果に基づく)や、三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会での検討を踏まえ、関係機関との協議の上、市川市塩浜2丁目護岸前面における干潟的環境(干出域等)形成試験を推進します。 また、他の場所での干潟的環境(干出域等)形成及び淡水導入の試験計画の検討を進めます。 1 市川塩浜2丁目護岸前面における干潟的環境(干出域等)形成試験のうち生物試験の推進 2 猫実川及び浦安日の出地区での干潟的環境形成の試験計画等の検討	
		事業の進捗状況 20年度に策定した試験計画については、護岸改修に伴うモニタリング調査への影響等が懸念される意見が出ており、市川市塩浜2丁目護岸前面における試験の実施について庁内関係機関と協議しています。試験実施に係る影響については、特に対照測線への影響度について検討しています。	

第2節 生態系・鳥類

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
1 行徳湿地再整備事業 【自然保護課】	行徳湿地は、三番瀬の後背湿地の機能を有する汽水域の場所としての役割を発揮することが期待されています。	18年度 (事業名) 行徳湿地再整備事業	決算額 29,389 千円
	そこで、三番瀬との海水交換促進による干出域の拡大や湿地への淡水導入促進による汽水域化を図る施設の整備内容を検討するための調査を実施するとともに、学識経験者、NPO、市川市、県関係機関等による行徳内陸性湿地再整備検討協議会及び協議会内部に設置したワーキンググループを継続して運営し、具体的な検討を行います。また、老朽化による導流堤崩壊を回避するための改修工事及び湿地環境の悪化防止のための維持管理等を行います。	19年度 (事業名) 行徳湿地再整備事業	決算額 33,424 千円
(事業計画における5か年の目標) 三番瀬との海水交換、淡水導入促進施設の検討及び着工		20年度 (事業名) 行徳湿地再整備事業	決算見込額 18,797 千円 (別途H21～繰越 16,863 千円)
		実施計画 三番瀬との海水交換促進による干出域の拡大や湿地への淡水導入促進による汽水域化を図る施設の整備内容を検討するための調査を実施するとともに、学識経験者、NPO、市川市、県関係機関等による行徳内陸性湿地再整備検討協議会において、具体的な検討を行います。また、湿地環境の悪化防止のため、現況水路や浄化池等施設の機能調査及び維持管理等を行います。	
		1 湿地内施設整備調査設計 行徳湿地と三番瀬との海水交換の促進、行徳湿地への淡水導入の強化等の再整備内容や湿地環境への影響を検討するための調査を行います。・深み埋め戻し詳細設計・生物生息環境影響予測調査	
		2 検討協議会開催 施設の整備内容等について、行徳内陸性湿地再整備検討協議会での検討を行います。	
		3 湿地内環境改善・維持管理等 湿地の環境が悪化しないよう、現況水路の水管理や浄化池の機能保持のための維持管理等を行います。	
		事業の実施結果・評価 (実施結果)	
		1 湿地内生物生息環境調査	
		2 導流堤改修工事 盛土工 L=155m (二次盛土完了) (※三次盛土及び張芝等はH21～繰越)	
		3 検討会の開催 行徳内陸性湿地再整備検討協議会の開催 2回	
		4 湿地環境維持管理	
		(結果の評価) 導流堤改修工事に着手しました。また、施設整備に向けた生物への影響調査を進めるとともに、整備内容に係る検討会を開催し、今後の施設整備に伴う生物への影響について検討を行いました。	
		21年度 (事業名) 行徳湿地再整備事業	当初予算額 45,000 千円
		実施計画 三番瀬との海水交換促進による干出域の拡大や湿地への淡水導入促進による汽水域化を図る施設の整備内容を検討するための調査を実施するとともに、学識経験者、NPO、市川市、県関係機関等による行徳内陸性湿地再整備検討協議会及び協議会内部に20年度に設置したワーキンググループを継続して運営し、具体的な検討を行います。また、老朽化による導流堤崩壊を回避するための改修工事及び湿地環境の悪化防止のための維持管理等を行います。	
		1 生物生息環境調査 海水交換を促進する施設の整備を行った場合の水位変動増大等に伴う潮間帯に生息する生物への影響を調査します。	
		2 検討協議会及びワーキンググループの開催 施設の整備内容等について、行徳内陸性湿地再整備検討協議会及びワーキンググループでの検討を行います。	
		3 湿地内環境改善・維持管理 湿地の環境が悪化しないよう、現況水路の水管理や浄化池の機能保持のための維持管理等を行います。	
		4 導流堤改修工事 老朽化した導流堤の崩壊を回避するため、改修工事を行います。	
		事業の進捗状況 ・生物生息環境調査は秋頃に実施予定です。	

平成22年度事業の方向性		
		(つづき) <ul style="list-style-type: none"> ・検討協議会、ワーキンググループは今後開催する予定です。 ・湿地内環境改善・維持管理の業務は、4月から実施しています。 ・導流堤改修工事については、H20からの繰越工事が5月に完了し、引き続きH21分工事を6月に発注し施工中です。

第2節 生態系・鳥類

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況
事業名	事業内容	
2 三番瀬自然環境調査事業 【自然保護課】	三番瀬の自然や生物相について、中長期的の変動を含めた把握・評価をするとともに、得られた科学的知見を順応的管理による再生事業の実施に役立てることが必要です。 そこで、三番瀬再生会議（評価委員会の検討結果に基づく）からの意見を踏まえ、生物とそれを取り巻く環境についての定期的な調査を行います。	18年度 (事業名) 三番瀬自然環境調査事業 決算額 24,891千円
		19年度 (事業名) 三番瀬自然環境調査事業 決算額 24,899千円
(事業計画における5か年の目標) 三番瀬の自然環境の把握	1 総合解析 平成18年度から平成21年度に実施した調査から三番瀬の現状についての総合解析を実施します。	20年度 (事業名) 三番瀬自然環境調査事業 決算見込額 19,005千円 実施計画 三番瀬再生会議（評価委員会の検討結果に基づく）からの意見を踏まえ、生物とそれを取り巻く環境についての定期的な調査を行います。 1 水環境モニタリング 3地点において、水温、塩分、クロロフィル、濁度、流向・流速等を、1年間を通じて連続的に計測します。 2 深浅測量 三番瀬の地形について調査を行います。なお、調査にあたっては、音響探査機を用いた測線間隔50mの測量に加え、RTK-GPSによる標高測定を追加して、精度を向上させて調査します。 事業の実施結果・評価 (実施結果) 1 三番瀬水環境モニタリング調査 水温、塩分、流向・流速など生物と関連の深い三番瀬の海域の物理的環境を把握するため、三番瀬全体での水の流動分布や流入等把握しました。 2 三番瀬深浅測量 三番瀬海域の現状を把握し、過去に実施された深浅測量のデータから、地形の侵食、堆積傾向を整理し、地形の変化について調査し、三番瀬の自然環境の変化を把握しました。 (結果の評価) 本調査の実施により、三番瀬の全体の自然環境の把握に向け、三番瀬海域の物理的環境及び地形の変化等の現状を把握することができました。 21年度 (事業名) 三番瀬自然環境調査事業 当初予算額 39,000千円 実施計画 三番瀬再生会議（評価委員会の検討結果に基づく）からの意見を踏まえ、生物とそれを取り巻く環境についての定期的な調査を行います。 1 中層大型底生生物調査 2 藻類調査 3 付着生物調査 4 空中撮影 事業の進捗状況 上記各調査を5月から3月の予定で実施しています。

第2節 生態系・鳥類

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
3 生物多様性の回復のための目標生物調査事業 【自然保護課】	<p>生物多様性の回復度合いを県民にわかりやすく示すため、当面の目標として、回復の目安となる生物種(目標生物種)の選定等を行うことが必要です。</p> <p>そこで、三番瀬再生会議や個別検討委員会等の専門家のアドバイスを聞きながら、引き続き、目標生物種の選定を進めていきます。</p>	18年度	(事業名) 生物多様性の回復のための目標生物調査事業 決算額 一千円
		19年度	(事業名) 生物多様性の回復のための目標生物調査事業 決算額 一千円
(事業計画における5か年の目標) かつての生物多様性の回復のための当面の目標生物種の選定と再生のための調査・検討		20年度	(事業名) 生物多様性の回復のための目標生物調査事業 決算見込額 998千円
		<p>実施計画</p> <p>目標生物種(動・植物)候補を選定するとともに、当該生物の生活史、生態系の中での位置付けや生息環境条件等について、情報や事例を収集した後に、目標生物種の選定を進めます。</p>	
		<p>事業の実施結果・評価</p> <p>(実施結果)</p> <p>1 三番瀬で操業する漁業者や三番瀬周辺に住んでいる方々にヒアリングやアンケートを行い、三番瀬で観察された生物の情報提供してもらいました。</p> <p>2 一般の人たちや三番瀬に関係する機関の方々に対してアンケート調査を行い、三番瀬で観察された生物の情報提供してもらいました。</p> <p>3 三番瀬目標生物勉強会での議論とアンケート集計結果を勘案しながら、より詳細な生息記録、生息環境や生活史の把握等を行う核となる「目標生物候補リスト(1次案)」を作成し、三番瀬再生会議に報告しました。</p> <p>(結果の評価)</p> <p>目標生物候補群については、選定はほぼ終了しましたが、「目標生物候補リスト(1次案)」について、引き続き、三番瀬再生会議や個別検討委員会等の専門家のアドバイスを聞きながら検討する必要があります。</p>	
		21年度	(事業名) 生物多様性の回復のための目標生物調査事業 当初予算額 一千円
		<p>実施計画</p> <p>選定する目標生物種について、各種検討委員会等において具体的な再生事業の検討における重要な要素の一つとして取り扱われるよう、情報の共有を図っていきます。</p>	
		<p>事業の進捗状況</p> <p>「目標生物候補リスト(1次案)」について、専門家のアドバイスを聞きながら検討しています。</p>	

第3節 漁業

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
1 豊かな漁場への改善方法の検討【水産課】	<p>三番瀬周辺海域は、地形、海況等の変化により、漁場としての機能が低下していることから、三番瀬の漁場特性を整理し、小区画ごとに改善方向を検討していく必要があります。</p> <p>そこで、海洋・漁業の専門家、漁業者、地元住民等で組織する「三番瀬漁場再生検討委員会」の議論を踏まえ、干潟や滞などの具体的な漁場再生手法についてのシミュレーションを行い、その効果と影響を検討します。</p> <p>また、ノリの生産に大きな影響を与える育苗期の病害については、近年特に発生が著しい状況にあるため、「漁場特性マップ」を補完する現地調査を行います。</p>	18年度 (事業名) 三番瀬漁場再生検討事業, 三番瀬漁場改善検討事業	決算額 7,539 千円
		19年度 (事業名) 三番瀬漁場再生検討事業, 三番瀬漁場改善検討事業	決算額 8,759 千円
(事業計画における5か年の目標) 三番瀬漁場改善策に係る整理と評価		20年度 (事業名) 三番瀬漁場再生検討事業, 三番瀬漁場改善検討事業	決算見込額 7,187 千円
		<p>実施計画</p> <p>これまでの科学的な知見と、漁業者の経験的知見から得られる漁場の特性を整理した「三番瀬漁場特性マップ」(19年度に完成予定)の情報に基づき抽出した漁場再生手法等について、数値シミュレーションによる効果や影響の検証を行い、漁場再生の具体化に向けた検討を行います。また、ノリの生産に大きな影響を与える育苗期の病害については、最近特に、発生が著しい状況にあるため、「漁場特性マップ」の情報を補完するための現地調査を行います。</p> <p>1 「漁場特性マップ」の情報等に基づく改善手法の検討 19年度に完成する「漁場特性マップ」及びその情報等を基に抽出した漁場再生手法の数値シミュレーションによる効果と影響の検討</p> <p>2 ノリの病害情報補完のための現地調査 ノリの病害に関し、最も重要となる育苗期における漁場の環境条件を把握するため、流向・流速や水質等の調査の実施</p>	
		<p>事業の実施結果・評価</p> <p>1 改善手法の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> アサリの減耗要因の一つと考えられている冬季の波浪の抑制を目的としたシミュレーションの実施 1件 簡易消波パネルの効果的な設置方法や、期待される静穏域の確保についての可能性が示されました。 三番瀬漁場再生検討委員会の開催 3回 <p>2 ノリ漁場環境調査の実施(10月～12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> 流向流速等連続調査(漁場内6点、表層) 水質定期調査(漁場内10点、表層、中層) 水温連続調査(漁場内20点、表層) <p>漁場環境に関する最新データを収集することができました。</p>	
		21年度 (事業名) 三番瀬漁場再生検討事業, 三番瀬漁場改善検討事業	当初予算額 7,345 千円
		<p>実施計画</p> <p>これまでの科学的な知見と、漁業者の経験的知見から得られる漁場の特性を整理した「漁場特性マップ」の情報に基づいて抽出した課題等について、「三番瀬漁場再生検討委員会」において、漁場再生の具現化に向けた検討を行います。また、ノリの生産に大きな影響を与える育苗期の病害については、近年特に発生が著しい状況にあるため、「漁場特性マップ」の情報を補完する現地調査を行います。</p> <p>1 「漁場特性マップ」の情報に基づく改善手法の検討 19年度に完成した「漁場特性マップ」及びその情報を基に抽出した漁場再生手法の数値シミュレーションによる効果と影響の検討</p> <p>2 ノリの病害情報補完のための現地調査 ノリの病害に関し、最も重要となる育苗期における漁場の環境条件を把握するための流向・流速や水質等の調査</p>	
		<p>事業の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 三番瀬漁場再生検討委員会を8月に開催し、具体的な漁場再生手法について検討しました。 	

第3節 漁業

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
2 アオサ対策 【漁業資源課】	<p>大量に発生したアオサは三番瀬に堆積・腐敗して、漁場環境に悪影響を及ぼすことからアオサを効率的に回収することが必要です。</p> <p>そこで、アオサ発生状況調査を継続し、発生状況等を把握するとともに、平成19年度に導入したアオサ回収システムにより発生状況に応じた回収を行っていきます。</p> <p>また、回収したアオサの処理や有効利用方法について情報収集や検討を行います。</p>	<p>18年度 (事業名) 三番瀬漁場再生事業、三番瀬漁場再生調査事業 決算額 3,341 千円</p> <p>19年度 (事業名) 三番瀬漁場再生事業、三番瀬漁場再生調査事業 決算額 5,172 千円</p> <p>20年度 (事業名) 三番瀬漁場再生事業、三番瀬漁場再生調査事業 決算見込額 3,741 千円</p>	
	<p>(事業計画における5か年の目標) 漁業者との連携によるアオサの発生状況に応じた回収・処理方法の確立</p>	<p>実施計画 アオサ発生状況調査を継続し、発生状況等について把握するとともに、19年度に導入したアオサ回収システムにより発生状況に応じた回収を行っていきます。 また、回収したアオサの処理や有効利用方法について情報収集や検討を行います。</p> <p>事業の実施結果・評価 1 漁業者と連携した発生状況のモニタリング 5回実施 2 アオサ回収システムによる発生状況に応じた回収では、アオサの発生が平成16年度以降は最低の水準で漁場からの回収は不要 3 無害性の検証では、原藻の安全性を確認、乾燥アオサの効率的な加工技術では粉末乾燥アオサの製法を開発し、成果品の有用性では成分分析を行った結果、有効成分であるルテインを含有することが確認されました。 ・本事業の実施により、アオサの発生状況の定量的把握やアオサの有用性は確認でき、回収・処分にいたる問題点の整理ができました。</p>	
		<p>21年度 (事業名) 三番瀬漁場再生事業、三番瀬漁場再生調査事業 当初予算額 1,660 千円</p>	
		<p>実施計画 アオサ発生状況調査を継続し、発生状況等を把握するとともに、19年度に導入したアオサ回収システムにより発生状況に応じた回収を行っていきます。 また、回収したアオサの処理や有効利用方法について情報収集や検討を行います。</p> <p>1 アオサ回収を中心とした干潟保全活動への支援 2 アオサ発生量モニタリングの支援・指導 3 アオサ有効利用処理の事例収集・検討</p>	
		<p>事業の進捗状況 ・アオサ回収を中心とした干潟保全活動への支援体制を準備中です。 ・アオサ発生量モニタリングは2回実施しましたが、昨年同様アオサの発生は少なくアオサ回収システムは未稼働です。 ・アオサ有効利用処理については事例収集中です。</p>	

第3節 漁業

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
3 藻場の造成試験【漁業資源課】 (事業計画における5か年の目標) 漁業者との連携によるアマモ場づくり	三番瀬の漁場環境を改善するため、魚介類の生息域等として期待される藻場を試験的に造成する必要があります。 これまでの調査から、秋に移植すると初夏までは群落が形成され一定の幼稚仔育成機能が確認されましたが、夏季の高水温等により全て枯死する結果が得られました。 そこで、三番瀬と同様の厳しい環境下における藻場成立要因等の情報収集及び藻場造成の可能性の検討を行います。	18年度 (事業名) 三番瀬漁場再生調査事業	決算額 2,410千円
		19年度 (事業名) 三番瀬漁場再生調査事業	決算額 825千円
		20年度 (事業名) 三番瀬漁場再生調査事業	決算見込額 558千円
		実施計画 漁業者と連携したアマモ場造成を試行し、モニタリング調査を実施するとともに、移植用の株や種子の確保、及びアマモの生態観察を目的に人工栽培手法の開発を継続して行います。	
		事業の実施結果・評価 造成試験で移植したアマモは夏季には全て枯死する結果が得られ、その原因としては透明度不足、高水温等が考えられました。そのため、現在の造成手法でアマモ場を維持するためには毎年移植が必要となり、効率的ではないと考えられます。現在の三番瀬の環境評価とアマモ場造成の問題点が確認できました。	
		21年度 (事業名) 三番瀬漁場再生調査事業	当初予算額 240千円
		実施計画 これまでの調査から、秋に移植すると初夏までは群落が形成され一定の幼稚仔育成機能が確認されましたが、夏季の高水温等により全て枯死する結果が得られました。 したがって、現在の藻場造成手法では、アマモ場の維持について毎年の移植が必要となり、効率的ではないと考えられます。 そこで、今後は、三番瀬と同様の厳しい環境下における藻場成立要因等の情報収集及び検討を行います。 1 アマモ場視察・情報収集	
		事業の進捗状況 ・三番瀬と同様、水温等厳しい環境下である愛知県におけるアマモ場の藻場成立要因の情報を収集中です。	

第3節 漁業

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況
事業名	事業内容	
4 ノリ養殖管理技術の改善 【水産課・漁業資源課】	三番瀬をはじめとする東京湾のノリ養殖業の安定生産を実現するためには、漁場環境に対応した適切なノリ養殖管理技術を確立していくことが必要です。 そこで、ノリ養殖管理に必要な情報の提供を行うほか、現場を巡回し漁場特性の把握に努め、漁場特性に対応した漁場行使や、温暖化に対応した養殖管理などの技術指導を継続して実施します。また、陸上採苗施設の機能強化を支援します。 また、三番瀬の場所別ノリの生長量や疾病の発生状況調査を実施し、漁場特性に対応したノリ養殖管理技術の改善に取り組みます。	18年度 (事業名) ノリ生産管理技術システム化試験事業、東京湾漁業総合対策事業(共同利用施設設置事業) 決算額 20,269千円
		19年度 (事業名) ノリ生産管理技術システム化試験事業、東京湾漁業総合対策事業(共同利用施設設置事業) 決算額 11,339千円
(事業計画における5か年の目標) 三番瀬の漁場環境に対応した適切なノリ養殖管理技術の確立		20年度 (事業名) ノリ生産管理技術システム化試験事業、東京湾漁業総合対策事業(共同利用施設設置事業)、三番瀬漁場再生事業 決算見込額 8,856千円
		実施計画 ノリ養殖管理に必要な情報の提供を行うほか、現場を巡回し漁場特性の把握に努め、漁場特性に対応した漁場行使や、温暖化に対応した養殖管理などの技術指導を継続して実施します。また、陸上採苗施設の機能強化を支援します。 1 技術指導等 2 ノリの陸上採苗に必要な高性能冷水機の整備に対し助成します。 3 漁場特性に対応したノリ養殖管理技術を実証するため、三番瀬の場所別ノリの生長量や疾病の発生状況調査を実施します。
		事業の実施結果・評価 1 ノリ生産管理技術システム化試験事業 ・技術指導の実施：現地指導、研修会(7月) ・情報提供の実施：ノリ芽健全度情報、のり養殖通報等 2 東京湾漁業総合対策事業(共同利用施設設置事業) ・高性能冷水機の整備：3漁協 13台 3 三番瀬漁場再生事業 ・場所別ノリの生長量・病害発生状況調査を実施し、ノリの生育と漁場環境の関係を把握
		21年度 (事業名) ノリ生産管理技術システム化試験事業、東京湾漁業総合対策事業(共同利用施設設置事業)、三番瀬漁場再生事業 当初予算額 49,853千円
		実施計画 ノリ養殖管理に必要な情報の提供を行うほか、現場を巡回し漁場特性の把握に努め、漁場特性に対応した漁場行使や、温暖化に対応した養殖管理などの技術指導を継続して実施します。また、陸上採苗施設の機能強化を支援します。また、三番瀬の場所別ノリの生長量や疾病の発生状況調査を実施し、漁場特性に対応したノリ養殖管理技術を実証します。 1 技術指導等 (1) 各漁協の養殖施設の適正配置の指導 (2) 育苗期のノリ芽健全度調査の実施・生育状況情報の提供 (3) 既存の気象海況データ・生産状況データのデータベース化、養殖管理情報の提供、養殖管理指導 2 ノリの陸上採苗に必要な高性能冷水機の整備に対し助成 (1) 事業主体 漁業協同組合 (2) 補助対象 陸上採苗施設冷水機 (3) 補助率 対象経費の5/10以内 3 三番瀬の場所別ノリの生長量・疾病発生状況調査

平成22年度事業の方向性	
	事業の進捗状況 1 ノリ生産管理技術の指導等 ・技術指導の実施：現地指導、研修会（7月） ・情報提供の実施：ノリ芽健全度情報、のり養殖通報等 2 ノリの陸上採苗に必要な高性能冷水機22台（7漁協）の整備に対する補助事業を実施中です。 3 三番瀬漁場再生事業については、ノリ漁期に向けて準備中です。

第3節 漁業

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況
事業名	事業内容	
5 高水温耐性ノリ品種の改良 【漁業資源課】 （事業計画における5か年の目標） 漁業者との連携による高水温耐性ノリの開発	三番瀬をはじめとする東京湾のノリ主要産地では、海水温の上昇による養殖の開始時期の遅れや、年内の生産枚数の減少、病害による品質低下等により、ノリ養殖業は不安定な状況にあり、安定生産を実現させていくことが必要です。 そこで、高水温耐性を持ったノリ株の漁業者への普及を図ります。	18年度 (事業名) 高水温耐性ノリ品種改良事業 決算額 13,737千円 19年度 (事業名) 高水温耐性ノリ品種改良事業 決算額 15,142千円 20年度 (事業名) 高水温耐性ノリ品種改良事業 決算見込額 9,925千円
		実施計画 高水温耐性を持ったノリ株の収集、及び高水温下での室内培養による優良株の選抜育種を行うとともに、選抜した優良株の海面での養殖試験を実施します。 1 原種の収集 交配に使用するスサビノリの原種の収集を行います。 2 室内培養 (1) 養殖品種の高水温下での選抜育種を行います。 (2) プロトプラストを作出し、突然変異の誘導と細胞融合による交配を行います。 3 室外培養 室内培養で選抜育種した品種を使って、海上での試験養殖を実施します。
		事業の実施結果・評価 1 室内選抜試験 引き続き選抜育種及び作出試験を実施しました。 2 野外養殖試験 高水温耐性優良株5系統と従来株1系統を養殖し、疾病、収量等からその性状を把握しました。
		21年度 (事業名) 高水温耐性ノリ品種改良事業 当初予算額 7,769千円 実施計画 高水温耐性を持ったノリ株の収集、及び高水温下での室内培養による優良株の選抜育種を行なうとともに、選抜した優良株の海面での養殖試験を実施します。 1 高水温耐性を持ったノリ株の収集 2 優良株の選抜育種 3 優良株の海面での養殖試験
		事業の進捗状況 ・高水温耐性ノリについて品種登録に向けた準備を進めるとともに漁業者への普及を図ります。

第3節 漁業

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
6 アサリの資源生態に関する総合調査 【水産課】	<p>三番瀬ではアサリ資源が減少傾向にあることから、アサリ資源を持続的に利用するための調査・研究を進めていく必要があります。</p> <p>そこで、漁業者と連携したアサリの資源量や肥満度に関する調査を継続します。</p>	18年度	(事業名) 内湾貝類漁場調査事業 決算額 209千円
		19年度	(事業名) 内湾貝類漁場調査事業 決算額 209千円
(事業計画における5か年の目標) アサリ浮遊幼生の生態及びアサリ資源の変動要因の解明		20年度	(事業名) 内湾貝類漁場調査事業 決算見込額 206千円
		<p>実施計画</p> <p>アサリ資源の変動要因の解明のため、漁業者と共同でアサリの資源分布、肥満度等の調査を継続して行います。</p> <p>1 資源分布調査 偶数月に1回実施します。</p> <p>2 肥満度調査 毎月1回実施します。</p>	
		<p>事業の実施結果・評価</p> <p>1 資源・肥満度調査 資源分布調査を偶数月に1回34点で、肥満度調査を毎月1回3点で実施しました。</p>	
		21年度	(事業名) 内湾貝類漁場調査事業 当初予算額 185千円
		<p>実施計画</p> <p>漁業者と連携したアサリの資源量や肥満度に関する調査を継続します。</p> <p>1 資源分布調査</p> <p>2 肥満度調査</p>	
		<p>事業の進捗状況</p> <p>・資源分布調査を2回各34点で、肥満度調査を4回各2～3点で実施しました。</p>	

第3節 漁業

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
7 アサリ生産対策 【水産課・漁業資源課】	<p>三番瀬ではアサリ資源が減少傾向にあることから、アサリ資源の維持・増大を図り、安定生産を実現していくことが必要です。</p> <p>そこで、冬期減耗防止技術を確立させるため、アサリ保護手法の検討を継続します。</p> <p>また、アサリ資源の持続的利用を目的とした既存ルールの周知を徹底するため、関係機関と連携して、チラシや小冊子の配布や現地指導等を行います。</p>	18年度	(事業名) 三番瀬漁場再生事業 決算額 3,959 千円
		19年度	(事業名) 三番瀬漁場再生事業 決算額 2,897 千円
(事業計画における5か年の目標) アサリの冬期減耗対策、稚貝対策及び秩序ある漁場利用の確立		20年度	(事業名) 三番瀬漁場再生事業、海面利用指導調整事業 決算見込額 4,989 千円
		<p>実施計画</p> <p>波浪抑制による冬期減耗防止技術を確立させるため、19年度に検討した消波パネルの最適な設置方法の検討を継続するとともに、アサリ保護効果の確認を行います。</p> <p>また、密漁対策のため、関係機関と連携して既存ルールの周知を徹底するためのチラシ配布や現地指導等を行います。</p>	
		<p>事業の実施結果・評価</p> <p>1 三番瀬漁場再生事業 消波パネルを用いて波浪を効率的に抑制する設置方法について数値シミュレーションと並行し、海面での実証試験を行いました。アサリの保護効果を十分には確認できませんでした。</p> <p>2 海面利用調整指導事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「千葉県海面利用協議会」の開催 2回 ・「海面利用協議会」推奨ルールの周知：ポスターの作成・配布 2,000 枚、チラシの作成・配布 30,000 枚 ・立看板の設置による海面利用ルールの周知：立看板の設置 20 本 ・東京湾北部漁場の指導・監視：船舶による指導・監視 3回 	
		21年度	(事業名) 三番瀬漁場再生事業、海面利用指導調整事業 当初予算額 4,708 千円
		<p>実施計画</p> <p>波浪抑制による冬期減耗防止技術を確立させるため、20年度に検討した消波パネルの最適な設置方法の検討及びアサリ保護効果の確認を継続します。</p> <p>また、密漁対策のため、漁業者による適切な漁場管理を支援するなど、秩序ある漁場利用を図ります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 消波パネルの最適な設置方法の検討 2 アサリ保護効果試験 3 海面利用の調整指導 <ol style="list-style-type: none"> (1) チラシ等による海面利用ルールの周知 (2) アサリ漁場の指導・監視 	
		<p>事業の進捗状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 消波パネルによる実証試験については、実施に向け計画中です。 2 海面利用ルールのチラシ等については、9月に配布予定です。 3 アサリ漁場の指導・監視については、9月以降に実施予定です。 	

第3節 漁業

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
8 漁業者と消費者を結ぶ取組【水産課】 (事業計画における5か年の目標) 「千産千消」やブランドづくりの取組支援	三番瀬の漁業を活性化させるためには、漁業への幅広い県民の理解が必要です。 そこで、県下全域との取組みとの整合を図りつつ、「千産千消」やブランドづくりの取組み等、漁業者による三番瀬の漁業に関わる情報発信を支援し、消費者との結びつきを深めていきます。	18年度 (事業名) 地魚一番 in 千葉 決算額 3,874 千円	
		19年度 (事業名) 地魚一番 in 千葉 決算額 2,343 千円	
		20年度 (事業名) 水産物販売流通消費総合対策事業 決算見込額 7,085 千円	
		実施計画 県下全域の取組との整合を図りつつ、「千産千消」やブランドづくりの取組等、漁業者による三番瀬の漁業に関わる情報発信を支援して消費者との結びつきを深めていきます。 1 千葉のさかなおいしさPR (1) 「千産千消」を推進するための冊子の作成・配布を行います。 (2) 県内全域の水産物を包括的にPRする販売促進活動を実施します。 2 朝揚げ水産物直送システムの推進 朝揚げ水産物の流通・販売体制の定着化に向けた生産者と流通関係者の情報交換を促進します。 3 ホームページを活用した交流の推進 県ホームページ「千葉さかな倶楽部」を活用した産地情報の発信による消費地との交流を推進します。 4 ブランドづくり支援 「千葉のさかな」のブランドづくりに向け、全国に誇れる優れた水産物を「千葉ブランド水産物」として認定するほか、意欲をもって取り組む地域生産者の活動を支援します。	
		事業の実施結果・評価 1 千葉のさかなおいしさPR パンフレット等の作成配布、電車内広告、シーフード普及促進協議会のイベント出展への助成等により販売促進活動を実施しました。 2 朝揚げ水産物直送システムの推進 民間主体でルート開拓により実施店舗が増えたため、計画していた推進協議会は開催しませんでした。 3 ホームページを活用した交流の推進 「千葉さかな倶楽部」を充実・修正し、千葉ブランド水産物や協力店等の情報を発信しました。 4 ブランドづくり支援 千葉ブランド水産物の認定委員会を開催し、3品目を新規認定しました。銚子市漁協による漁獲物の付加価値向上等を図るための活動を支援しました。	
		21年度 (事業名) 水産物販売流通消費総合対策事業 当初予算額 8,165 千円	
		実施計画 県下全域の取組みとの整合を図りつつ、「千産千消」やブランドづくりの取組み等、漁業者による三番瀬の漁業に関わる情報発信を支援して消費者との結びつきを深めていきます。 1 県産水産物の販売促進活動の推進 2 ブランド認定及び認定支援 3 新たな流通ルートの開拓への支援 4 食育・魚食普及の推進	
		事業の進捗状況 ・販売促進用資材の一部を作成するとともに、出展支援しているイベント等で、県産水産物の販売促進活動を実施しています。	

第4節 水・底質環境

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
1 海老川流域等の自然な水循環系の再生(1) 【河川環境課】	三番瀬に流入する海老川の健全な水循環系の再生を図ることが必要です。	18年度 (事業名) 流域貯留浸透事業(海老川) 決算額 10,000 千円	
		19年度 (事業名) 流域貯留浸透事業(海老川) 決算額 10,000 千円	
(事業計画における5か年の目標) 海老川流域の湧水の保全と再生のため、樹林帯の保全と再生を図りつつ、残された湧水源を保全し、まちづくりの様々な場面での雨水浸透対策等を促進	そこで、 1 都市河川再生対策事業(海老川) 海老川流域の清らかで豊かな流れの創出を目的として、雨水浸透施設の設置を奨励するパンフレットの配布や、建築確認申請時における設置指導を行い、流域住民の啓発に努め、雨水浸透対策の促進を引き続き図ります。	20年度 (事業名) 流域貯留浸透事業(海老川) 決算見込額 10,000 千円	
	2 河川環境整備事業(真間川) 「真間川流域水循環系再生構想」の実現に向け策定した「行動計画」の適切な運用を図るため、関係機関との調整を行うとともに、流域住民の啓発に引き続き努めます。	実施計画 雨水浸透施設の設置を奨励するパンフレットの配布や出張講義の実施、建築・排水確認申請時における官民一体となった設置指導を行い、流域住民の啓発に努め、雨水浸透対策の促進を引き続き図ります。 16年3月策定の「真間川流域水循環系再生構想」の実現に向けて、具体的な実施施策を盛り込んだ行動計画の策定などに引き続き取り組みます。	
		事業の実施結果・評価 船橋市内の小学校54校及び特別支援学校1校に対し、雨水浸透施設の設置を奨励するパンフレットを配布しました。また、小学校2校及びその他1校に対して出張授業を行うとともに、パンフレットを配布しました。 「真間川流域水循環系再生構想」の実現に向けて、行動計画の策定に係る関係機関との調整を行い、勉強会を1回及び地域懇談会を計3回開催する等により、具体的な実施施策などの検討を進めた結果、「真間川流域水循環系再生行動計画」を策定しました。	
		21年度 (事業名) 都市河川再生対策事業(海老川) 当初予算額 10,000 千円	
		実施計画 1 都市河川再生対策事業(海老川) 海老川流域の清らかで豊かな流れの創出を目的として、雨水浸透施設の設置を奨励するパンフレットの配布や、建築確認申請時における設置指導を行い、流域住民の啓発に努め、雨水浸透対策の促進を引き続き図ります。 2 総合治水対策特定河川事業(真間川) 16年3月に流域住民、関係機関と協力し「真間川流域水循環系再生構想」をとりまとめたところであり、今後、この実施に向けて、具体的な実施施策を盛り込んだ行動計画の策定などに引き続き取り組みます。	
		事業の進捗状況 都市河川再生対策事業(海老川)については、船橋市内の小学校54校及び特別支援学校1校に対し、雨水浸透施設の設置を奨励するパンフレットを配布しました。また、小学校2校に対して出張授業を行うとともに、パンフレットを配布しました。今後も、学校と調整し随時出張授業を実施していきます。 総合治水対策特定河川事業(真間川)については、「真間川流域水循環系再生構想」の実現に向け策定した「行動計画」の適切な運用を図るため、関係機関との調整を行うとともに流域住民の啓発に努めます。	

第4節 水・底質環境

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況
事業名	事業内容	
1 海老川流域等の自然な水循環系の再生(2) 【下水道課】 (事業計画における5か年の目標) 海老川流域の湧水の保全と再生のため、樹林帯の保全と再生を図りつつ、残された湧水源を保全し、まちづくりの様々な場面での雨水浸透対策等を促進	三番瀬に流入する海老川の健全な水循環系の再生を図ることが必要です。 そこで、 3 印旛沼流域下水道事業 下水高度処理水を河川に導水し、水循環を図り新たな水環境の創造に引き続き取り組みます。	18年度 (事業名) 海老川・真間川処理水還元事業 決算額 264,975千円 19年度 (事業名) 海老川・真間川処理水還元事業 決算額 22,565千円 20年度 (事業名) 海老川・真間川処理水還元事業 決算見込額 28,875千円
		実施計画 下水高度処理水を河川に導水し、平常時流量の確保や河川の水質改善を図ることにより、新たな水環境の創造に引き続き取り組みます。 1 施工位置 船橋市 2 事業内容 ・長津川、飯山満川への還元導水 ・下水処理水還元用分岐施設整備
		事業の実施結果・評価 下水高度処理水の海老川水系河川への還元導水については、平成19年10月より供用を開始した2河川(長津川、飯山満川)への放流を継続して実施しています。 なお、海老川水系における下水道処理人口普及率の向上に伴い、環境基準点での水質改善が確認されたことから、平成20年度は他河川への導水施設の建設について見合わせることにしました。
		21年度 (事業名) 海老川・真間川処理水還元事業 当初予算額 34,650千円 実施計画 印旛沼流域下水道事業 下水高度処理水を河川に導水し、水循環を図り新たな水環境の創造に引き続き取り組みます。 ・施工位置 船橋市 ・事業内容 ・長津川、飯山満川への還元導水 ・下水処理水還元用分岐施設整備
		事業の進捗状況 印旛沼流域下水道事業については、1日8時間で週2回、長津川及び飯山満川への還元導水を実施しています。

第4節 水・底質環境

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
2 三番瀬周辺の県の管理する河川再生の検討 【河川環境課】	水循環系の再生のため、三番瀬周辺の県の管理する河川において、多自然化等、再生の検討を行う必要があります。 そこで、20年度の整理結果を踏まえ、個別の河川において、多自然化等、再生の検討を引き続き行います。	18年度 (事業名) — 決算額 — 千円	
		19年度 (事業名) — 決算額 — 千円	
(事業計画における5か年の目標) 再生可能な県の管理する河川の整理・検討		20年度 (事業名) 都市河川再生対策事業 決算見込額 1,000 千円	
		<u>実施計画</u> 再生可能な県の管理する河川を整理します。	
		<u>事業の実施結果・評価</u> 三番瀬周辺の県の管理する河川である猫実川、真間川、海老川等について、既往文献等の資料収集により、環境特性（現場写真撮影、河川環境整備状況、河川利用状況、水質測定データ等）の整理を行いました。	
		21年度 (事業名) 都市河川再生対策事業 当初予算額 — 千円	
		<u>実施計画</u> 水循環系の再生のため、三番瀬周辺の県の管理する河川において、多自然化等、再生の検討を行う必要があります。 そこで、20年度の整理結果を踏まえ、個別の河川において、多自然化等、再生の検討を行います。	
		<u>事業の進捗状況</u> 20年度の整理結果を踏まえ、三番瀬周辺の県の管理する河川である猫実川、真間川、海老川等において、多自然化等、再生の検討を行っています。	

第4節 水・底質環境

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
3 合併処理浄化槽の普及 【水質保全課】	東京湾へ流入する汚濁負荷量を削減するためには、下水道未整備地域において、生活排水等の対策を進める必要があります。	18年度	(事業名) 生活排水対策浄化槽推進事業 決算額 376,479 千円
	そこで、高度処理型浄化槽の普及促進および単独処理型浄化槽、くみ取り便所から合併処理浄化槽への転換促進を図ります。	19年度	(事業名) 生活排水対策浄化槽推進事業 決算額 388,660 千円
(事業計画における5か年の目標) 水質汚濁防止法に基づき、国が定める総量削減基本方針に従い策定した東京湾総量削減計画により、生活排水や産業排水対策等を実施し、流入する化学的酸素要求量(COD)、窒素、リンの負荷量を削減します。		20年度	(事業名) 生活排水対策浄化槽推進事業 決算見込額 348,240 千円
		実施計画 合併処理浄化槽や高度処理型浄化槽の普及促進および単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換促進を図ります。 1 市町村による浄化槽設置者への補助事業に対する助成 千葉県及び全域下水道区域である浦安市、習志野市を除く県下53市町村に対し、補助を行います。	
		事業の実施結果・評価 千葉県及び全域下水道区域である浦安市、習志野市を除く53市町村に対し、3,044基の浄化槽設置補助を行いました。(転換補助の基数は内数) (1) 設置補助 3044基 (280,598千円) (2) 転換補助 (965)基 (67,642千円) 計 3,044基 (348,240千円) 【全県的事業の場合：三番瀬関係事業分の状況】 三番瀬流域市の船橋市、市川市においては、256基の浄化槽設置補助を行いました。 船橋市：125基(内転換補助7基) 市川市：131基(内転換補助3基) 計 256基(内転換補助10基) 三番瀬流域の船橋市、市川市においては、年度当初の設置補助予定数237基に対して256基の設置補助を行っており、順調に合併処理浄化槽の設置促進が図られました。	
		21年度	(事業名) 生活排水対策浄化槽推進事業 当初予算額 320,976 千円
		実施計画 東京湾へ流入する汚濁負荷量を削減するためには、下水道未整備地域において、生活排水等の対策を進める必要があります。 そこで、高度処理型浄化槽の普及促進および単独処理浄化槽、くみ取り便所から合併処理浄化槽への転換促進を図ります。 1 市町村による浄化槽設置者への補助事業に対する助成 千葉県及び全域下水道区域である浦安市、習志野市を除く県下53市町村に対し、補助を行います。	
		事業の進捗状況 平成21年度は、千葉県及び全域下水道区域としている浦安市、習志野市を除く53市町村に対して1,842基の浄化槽設置補助を行う予定です。 そのうち、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換は1,095基の予定です。	

第4節 水・底質環境

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況
事業名	事業内容	
4 産業排水対策 【水質保全課】	東京湾総量削減計画に基づく水質総量規制等により、産業排水からの汚濁負荷量を削減する必要があります。	18年度 (事業名) 特定事業場等排水監視事業 決算額 37,163 千円
	そこで、19年度に策定した第6次東京湾総量削減計画に基づき、段階的に汚濁負荷量を削減するとともに、特定事業場への立入検査等により規制基準の遵守状況を把握し、必要に応じて排水処理施設の改善、設置等の指導を行います。	19年度 (事業名) 特定事業場等排水監視事業 決算額 23,803 千円
(事業計画における5か年の目標) 水質汚濁防止法に基づき、国が定める総量削減基本方針に従い策定した東京湾総量削減計画により、生活排水や産業排水対策等を実施し、流入する化学的酸素要求量(COD)、窒素、リンの負荷量を削減します。	20年度 (事業名) 特定事業場等排水監視事業 決算見込額 16,714 千円	20年度 (事業名) 特定事業場等排水監視事業 決算見込額 16,714 千円
	実施計画 平成19年度に策定した第6次東京湾総量削減計画に基づき、段階的に汚濁負荷量を削減するとともに、特定事業場への立入検査等により規制基準の遵守状況を把握し、必要に応じて排水処理施設の改善、設置等の指導を行います。また、排水量の多い事業場について、異常な負荷の発生を感知し、緊急に対応できる仕組みを水質汚濁防止法の政令市と連携して検討します。	事業の実施結果・評価 1 特定事業場等排水監視指導事業 県所管分の規制対象事業場1,353事業場のうち912事業場に対して立入検査を行い、排水基準の遵守状況や排水施設の稼働状況を確認しました。 2 東京湾の総量削減対策事業 規制対象事業場から発生する汚濁負荷量等の平成19年度実績データを作成しました。
		【三番瀬関係事業分の状況】 三番瀬流域に排出される県所管分の規制対象事業場23事業場のうち、延べ8事業場に対して立入検査を行い排水基準の遵守状況を確認しました。違反事業場はありませんでした。 ・立入検査を行った事業場の排水基準違反はありませんでした。三番瀬流域の事業場の排水基準の遵守状況が確認できました。 ・東京湾の総量削減対策事業については、ほぼ予定通り事業を実施することができました。
		21年度 (事業名) 特定事業場等排水監視事業 当初予算額 41,000 千円
		実施計画 19年度に策定した第6次東京湾総量削減計画に基づき、段階的に汚濁負荷量を削減するとともに、特定事業場への立入検査等により規制基準の遵守状況を把握し、必要に応じて排水処理施設の改善、設置等の指導を行います。 1 特定事業場等排水監視事業 水質汚濁防止法に基づき、特定事業場等を対象に立入検査を実施します。 2 東京湾の総量削減対策事業 規制対象事業場の排水実績データや流域人口等のフレームデータを整理し、総量削減計画の進行管理を行います。
		事業の進捗状況 平成21年度も引き続き立入検査を実施しており、結果については次年度に公表します。

第4節 水・底質環境

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
5 流域県民に対する啓発 【水質保全課】	東京湾や流入河川の水質改善について、広く流域の住民や飲食店等の小規模事業者を対象として啓発活動を行い、生活排水及び事業者排水に係る対策の自主的な取組の普及促進を図る必要があります。	18年度 (事業名) —	決算額 — 千円
	そこで、リーフレットの配布や県ホームページによる広報・啓発活動を行います。	19年度 (事業名) 東京湾の総量削減対策事業	決算額 500 千円
(事業計画における5か年の目標) 水質汚濁防止法に基づき、国が定める総量削減基本方針に従い策定した東京湾総量削減計画により、生活排水や産業排水対策等を実施し、流入する化学的酸素要求量(COD)、窒素、リンの負荷量を削減します。		20年度 (事業名) 東京湾の総量削減対策事業	決算見込額 997 千円
		実施計画 リーフレットの配布や県ホームページによる広報・啓発活動を行います。	
		1 東京湾の総量削減対策事業 流域県民に対し、家庭でできる浄化対策の取組に関するリーフレットを作成すると共に、小規模な飲食店等を対象とするパンフレットを作成し配布します。	
		2 県ホームページによる広報 生活排水対策や飲食店・食料品製造業等、東京湾の水質浄化対策に関する情報を県ホームページに掲載します。	
		事業の実施結果・評価	
		1 啓発用リーフレット等の作成・配布 (1) 県民啓発用パンフレットの作成 12,000 部 (2) 小規模飲食店用リーフレットの作成 3,000 部 (3) 生活排水対策取組事例集の作成 500 部	
		2 県ホームページによる広報 生活排水対策や飲食店・食料品製造業等の排水規制等に関する情報を掲載するとともに、東京湾の水質浄化対策に関する情報を更新しました。	
		啓発用リーフレットの作成・配布及び県ホームページによる広報について、当初予定したとおりの広報・啓発活動が行えました。	
		21年度 (事業名) 東京湾の総量削減対策事業	当初予算額 3,000 千円
		実施計画 リーフレットの配布や県ホームページによる広報・啓発活動を行います。	
		1 東京湾の総量削減対策事業 水質浄化対策のアイディア及び取組事例の発表やリーフレットを作成し配布します。	
		2 県ホームページによる広報 生活排水対策や飲食店・食料品製造業等、東京湾の水質浄化対策に関する情報を県ホームページに掲載します。	
		事業の進捗状況 リーフレットの配布や県ホームページによる広報のほか、県内で順次開催中の浄化槽講習会において啓発活動を行うとともに、9月6日に開催されるエコメッセでの啓発活動を予定しております。	

第4節 水・底質環境

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
6 江戸川左岸流域下水道事業(下水道の普及と高度処理) 【下水道課】	<p>河川及び東京湾へ流入する生活排水等の汚濁防止負荷量を削減し、公共用水域の水質改善を図ることが必要です。</p> <p>そこで、21年度に引続き、公共下水道の整備を促進するとともに、市の実施する関連公共下水道と連携して流域下水道の整備を進めます。</p>	18年度	(事業名) 江戸川左岸流域下水道事業 決算額 6,425,019 千円
		19年度	(事業名) 江戸川左岸流域下水道事業 決算額 7,610,625 千円
(事業計画における5か年の目標) 江戸川左岸流域下水道の処理人口普及率の更なる向上		20年度	(事業名) 江戸川左岸流域下水道事業 決算見込額 6,558,514 千円
		<p>実施計画</p> <p>引き続き公共下水道の整備を促進するとともに、市の実施する関連公共下水道と連携して、流域下水道の整備を進めます。</p> <p>1 管渠の整備 野田幹線 径800mm L=約0.6km</p> <p>2 江戸川第二終末処理場の整備等 水処理東系列の整備ほか</p>	
		<p>事業の実施結果・評価</p> <p>流域下水道の施設整備を実施するとともに、公共下水道の整備を促進した結果、下水道を利用できる人口(処理人口普及率)が向上しました。</p>	
		21年度	(事業名) 江戸川左岸流域下水道事業 当初予算額 4,485,388 千円
		<p>実施計画</p> <p>20年度に引き続き、公共下水道の整備を促進するとともに、市の実施する関連公共下水道と連携して流域下水道の整備を進めます。</p> <p>1 管渠の整備 野田幹線 L=約0.4km</p> <p>2 江戸川第二終末処理場の整備等 機械電気設備の整備ほか</p>	
		<p>事業の進捗状況</p> <p>平成24年度供用に向けた野田幹線の整備及び江戸川第二終末処理場における機械電機設備の整備が順調に進んでいます。</p>	

第4節 水・底質環境

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
7 総合治水対策特定河川事業 【河川整備課】	河川は生物の貴重な生息・生育の場となることから、水際や流れに変化をもたせ、護岸を緩やかにするなど、自然環境に配慮した多自然川づくりを進めていきます。 そこで、多自然川づくりによる河川整備を行うため、用地の取得及び河川改修を進めます。	18年度	総合治水対策特定河川事業 決算額 111,700 千円
		19年度	総合治水対策特定河川事業 決算額 60,000 千円
(事業計画における5か年の目標)	利根川水系国分川多自然河川護岸整備(市川市堀之内地先、松戸市大橋地先)	20年度	総合治水対策特定河川事業 決算見込額 160,000 千円
		実施計画 多自然川づくりによる河川整備を行うため、19年度に引き続き、用地の取得を進め、取得済み区間の河川改修を行います。 1 事業箇所 利根川水系国分川(松戸市秋山地先外) 2 事業内容 (1) 用地取得 1 式 (2) 河道改修 360 m	
		事業の実施結果・評価 用地取得1式、河道改修354mを実施し、多自然川づくりによる河川整備の進捗を図りました。	
		21年度	総合治水対策特定河川事業 当初予算額 56,000 千円
		実施計画 多自然川づくりによる河川整備を行うため、用地の取得を進めます。 1 用地取得・物件補償 1 式	
		事業の進捗状況 事業用地を取得するため、地権者と交渉を進めるとともに、河道改修工事発注のための手続きを進めています。	

第4節 水・底質環境

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況
事業名	事業内容	
8 青潮関連情報発信事業 【水質保全課・水産課】 (事業計画における5か年の目標) 青潮発生の原因でもある貧酸素水塊分布状況の情報発信	東京湾の海底に発生する「貧酸素水塊」は、水生生物の分布に大きな影響を与えることから、その情報を把握し、共有する必要があります。 そこで、 青潮発生時には水質調査等を実施し、青潮の範囲や程度を確認するとともに、被害状況等の情報を収集し、随時、関係機関に情報提供を行います。 また、 漁業者と協働して海洋観測を行い、貧酸素水塊の分布情報を発信するとともに、観測日以外についてはコンピュータのシミュレーションにより予測図を作成し、県ホームページにおいて引き続き情報発信を行います。	18年度 (事業名) 水質調査船運営事業, 東京湾漁場環境調査事業 決算額 30,854千円 19年度 (事業名) 水質調査船運営事業, 東京湾漁場環境調査事業 決算額 9,834千円 20年度 (事業名) 水質調査船運営事業, 東京湾漁場環境調査事業 決算見込額 10,942千円
		実施計画 1 青潮発生時には水質調査等を実施し、青潮の範囲や程度を確認するとともに、被害状況等の情報を収集し、随時、関係機関に情報提供を行います。また、漁業者と協働して海洋観測を行い、貧酸素水塊の分布情報を発信するとともに、観測日以外についてはコンピュータのシミュレーションにより予測図を作成し、県ホームページにおいて引き続き情報発信を行います。 2 水質調査船による青潮発生状況調査の実施 水質保全課と環境研究センターが、水質調査船により、目視で魚類の斃死の有無を調査するとともに、必要に応じて多項目水質分析計により、水温、塩分、pH、DO(溶存酸素)、ORP(酸化還元電位)、濁度等の鉛直プロファイルを測定し、青潮の範囲や程度を確認します。
		事業の実施結果・評価 1 水質調査船運営事業 ・定期調査 13回(青潮、赤潮調査) ・臨時青潮調査 7回 ・その他の海域調査時での青潮監視 38回 三番瀬を含む海域で3回の青潮の発生が確認され、関係機関に情報提供を行いました。 2 東京湾漁場環境調査事業 ・「貧酸素水塊速報」を5月から12月にかけて28回、また、シミュレーションによる「分布予測図」を6時間間隔で作成し、貧酸素水塊の分布及び青潮に関する情報を県ホームページにおいて公開しました。
		21年度 (事業名) 水質調査船運営事業, 東京湾漁場環境調査事業 当初予算額 20,843千円 実施計画 青潮発生時には水質調査等を実施し、青潮の範囲や程度を確認するとともに、被害状況等の情報を収集し、随時、関係機関に情報提供を行います。 また、漁業者と協働して海洋観測を行い、貧酸素水塊の分布情報を発信するとともに、観測日以外についてはコンピュータのシミュレーションにより予測図を作成し、県ホームページにおいて引き続き情報発信を行います。 1 水質調査船による青潮発生状況調査の実施 水質調査船により、目視で魚類の斃死の有無を調査するとともに、必要に応じて水温、pH、DO(溶存酸素)、濁度等を測定し、青潮の範囲や程度を確認します。 2 漁場環境の調査及び情報の提供 (1) 貧酸素水塊調査 (2) のり漁場環境調査 (3) 情報の提供 ア 貧酸素水塊情報 イ のり漁況速報 シミュレーションについては、水質調査船を含む関係機関からの情報を収集して適時結果を検証するなど、確度向上に努めます。
		事業の進捗状況 1 水質調査船による青潮発生状況調査の実施 2 漁場環境の調査及び情報の提供 ・「速報」を4月から16回、また、「予測分布図」を6時間間隔で作成し、県ホームページで公開しました。

第5節 海と陸との連続性・護岸

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
1 市川市塩浜護岸改修事業 【河川整備課】	<p>老朽化が著しい2丁目地先の護岸については、早急に護岸の安全性を確保するとともに、海と陸との連続性を取り戻すことが必要です。</p> <p>そこで、生態系にも配慮した高潮防護の護岸改修を進めます。</p> <p>護岸の整備にあたっては、最大潮位でも越流しない高さの確保と耐震対策を優先して進めます。</p>	17・18年度	市川市塩浜護岸改修事業 決算額 258,600 千円
		19年度	市川市塩浜護岸改修事業 決算額 344,000 千円
(事業計画における5か年の目標) 老朽化護岸の改修＝約900m (塩浜2丁目地先)		20年度	市川市塩浜護岸改修事業 決算見込額 648,000 千円
		<p>実施計画</p> <p>生態系にも配慮した高潮防護の護岸改修を進めます。</p> <p>1 施工位置 市川市塩浜2丁目</p> <p>2 工事延長 L=716m</p> <p>3 事業内容</p> <p>(1) 石積緩傾斜堤護岸工事 捨石部分 L=356m+完成形60m 陸側H鋼杭 L=300m</p> <p>(2) モニタリング調査</p> <p>(3) 緑化試験 護岸緑化のための植物種の選定試験を行います。</p> <p>(4) 順応的管理</p> <p>モニタリング調査及び三番瀬自然環境調査の結果等を基に、護岸構造を評価・検討し、より良い工夫を施していきます。</p> <p>事業の実施結果・評価</p> <p>石積緩傾斜堤護岸工事(石積部分L=356m+完成形60m、H鋼杭L=250m)、緑化試験(種まき、苗植え)を実施、モニタリング調査3回実施、順応的管理を実施しました。</p> <p>工事及びモニタリング調査については、当初予定した内容の工事・調査・試験を実施し、順応的管理手法に基づく検証の結果、良好な結果が確認されています。</p>	
		21年度	市川市塩浜護岸改修事業 当初予算額 300,000 千円
		<p>実施計画</p> <p>生態系にも配慮した高潮防護の護岸改修を進めます。</p> <p>1 施工位置 市川市塩浜2丁目</p> <p>2 工事延長 L=255m</p> <p>3 事業内容</p> <p>(1) 石積緩傾斜堤護岸工事 陸側H鋼杭 L=205m 捨石部分 L=50m</p> <p>(2) モニタリング調査</p> <p>三番瀬再生会議(評価委員会の検討結果に基づく)等からの意見を踏まえ、18年度～21年度施工区間等を対象として、護岸工事による影響等を把握するため、地形測量、底質、生物、緑化試験、砂付け試験等のモニタリング調査を実施します。</p> <p>(3) 砂つけ試験</p> <p>塩浜2丁目東側の隅角部に砂を投入し、その挙動とそこに現れる生物相を確認します。</p> <p>(4) 順応的管理</p> <p>モニタリング調査及び三番瀬自然環境調査結果等を基に、護岸構造を評価・検討し、より良い工夫を施していきます。</p> <p>事業の進捗状況</p> <p>8月末までに石積緩傾斜堤護岸工事の石積部分L=50mが完成し、900m区間の老朽化した鋼矢板の倒壊防止が完了しました。また、6月には砂付け試験のための砂を投入しました。さらに、モニタリング調査を1回実施しました。</p>	

第5節 海と陸との連続性・護岸

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
2 護岸の安全確保の取組 【地域づくり推進課・河川整備課・河川環境課・港湾課・企業庁建設課】 (事業計画における5か年の目標) 護岸の安全確保に向けた具体的な取組の実施	市川市塩浜2丁目と3丁目の区域以外においても、県民の生命・財産を守るために護岸の安全性を確保することが必要です。 そこで、三番瀬における県が管理する護岸を適切に維持管理します。 また、塩浜1丁目護岸については、管理者である市川市と協議・調整が整ったことから、安全かつ生態系に配慮した改修を進めます。	18年度 (事業名) — 決算額 — 千円	
		19年度 (事業名) — 決算額 — 千円	
		20年度 (事業名) — 決算見込額 — 千円	
		実施計画 三番瀬における県が管理する護岸を適切に維持管理します。 また、塩浜1丁目護岸については、安全かつ生態系に配慮した改修がなされるように、管理者である市川市と協議・調整を進めます。	
		事業の実施結果・評価 ・県が管理する護岸については、施設の点検を実施し適切に維持管理を行いました。 ・塩浜1丁目護岸については、市川市と協議・調整を行い、今後の整備方向が決定しました。	
		21年度 (事業名) 市川市塩浜1丁目海岸再生事業 6月補正予算 30,000千円	
		実施計画 三番瀬における県が管理する護岸を適切に維持管理します。 また、塩浜1丁目護岸については、安全かつ生態系に配慮した改修がなされるように、管理者である市川市と協議・調整を進めます。	
		事業の進捗状況 ・護岸の腐食等の状況から安全性の確保のため早急な改修整備が必要であることから、6月補正予算に基礎調査等に係る費用を計上し、地質調査、地形測量等を実施します。	

第5節 海と陸との連続性・護岸

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
3 自然再生(湿地再生)事業 【地域づくり推進課・検討G】 (事業計画における5か年の目標) 自然再生(湿地再生)の実現に向けた取組	現在の三番瀬は、海と陸との変化に富む自然なつながりが護岸によって断ち切られています。 そこで、市川市塩浜地区の市川市所有地において、実現化検討委員会での検討を踏まえ、塩浜護岸の改修や地元市・関係機関等との協議調整を図りながら、自然再生(湿地再生)の基本設計を進めます。	18年度 三番瀬再生実現化推進事業 決算額 11,482 千円	
		19年度 三番瀬再生実現化推進事業 決算額 8,947 千円 20年度 三番瀬再生実現化推進事業 決算見込額 9,653 千円	
		実施計画 市川市塩浜地区の市川市所有地において、検討委員会の検討を踏まえ、塩浜護岸の改修や地元市・関係機関等との協議調整を図りながら、自然再生(湿地再生)の基本的事項を確定させていきます。	
		事業の実施結果・評価 学識経験者、漁業者、地元住民、環境保護団体等からなる検討委員会を5回開催しました。また、ワークショップを1回開催し、自然再生に向けた考え方を提案してもらいました。また、土地所有者である市川市から当該地区に対する環境学習施設等の整備計画を提示してもらい、自然再生(湿地再生)の基本的事項を検討しました。	
		21年度 三番瀬再生実現化推進事業 当初予算額 4,300 千円	
		実施計画 市川市塩浜地区の市川市所有地において、検討委員会の検討を踏まえ、塩浜護岸の改修や地元市・関係機関等との協議調整を図りながら、自然再生(湿地再生)の基本設計を進めます。 また、自然再生の実現を図るため地元市や関係機関と協議を進めます。	
		事業の進捗状況 ワークショップでの検討結果について、関係する委員会で報告しました。	

第6節 三番瀬を活かしたまちづくり

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
1 三番瀬周辺区域における調和のとれたまちづくりの取組 【県土整備政策課・都市計画課】 (事業計画における5か年の目標) 三番瀬周辺区域における調和のとれたまちづくりの検討に向けた県と地元市との協議の場の設置とまちづくりの支援	三番瀬周辺区域全体として、海と人とのつながりや地域文化を尊重しつつ、三番瀬の再生に向けて、より効果的に取り組むことが必要です。 そこで、三番瀬周辺区域における調和のとれたまちづくりについて検討をするため、広域的な観点から県と地元市と協議を行うとともに、各市が行う三番瀬を活かしたまちづくりを支援します。	18年度 (事業名) — 決算額 — 千円	
		19年度 (事業名) — 決算額 — 千円	
		20年度 (事業名) — 決算見込額 — 千円	
		実施計画 三番瀬周辺区域における調和のとれたまちづくりについて検討をするため、広域的な観点から県と地元市と協議を行うとともに、各市が行う三番瀬を活かしたまちづくりを支援します。	
		事業の実施結果・評価 地元市と意見交換会を行い、各市におけるまちづくりの取組状況を確認しました。	
		21年度 (事業名) — 当初予算額 — 千円	
		実施計画 三番瀬周辺区域における調和のとれたまちづくりについて検討をするため、広域的な観点から県と地元市と協議を行うとともに、各市が行う三番瀬を活かしたまちづくりを支援します。	
		事業の進捗状況 地元市との意見交換会と現地視察を実施し、各市におけるまちづくりの取組状況を確認しています。	

第7節 海や浜辺の利用

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
1 ルールづくりの取組 【地域づくり推進課・水産課】	<p>三番瀬の生態系や漁業に配慮しつつ、より多くの人々が海や浜辺に親しみ、利用できるようにしていくことが必要です。</p> <p>そこで、護岸管理等についての地元の調整状況を見ながら、海や浜辺の賢明な利用に関するルール作りに向けて、地域協議の場の設定を進めます。</p> <p>また、水産資源の持続的利用を目的とした既存ルールの周知を徹底するため、関係機関と連携して、チラシや小冊子の配布や現地指導等を行います。</p>	18年度 (事業名) —	決算額 — 千円
		19年度 (事業名) —	決算額 — 千円
(事業計画における5か年の目標) 海や浜辺の賢明な利用のルールづくりに向けた地域協議の場の設置		20年度 (事業名) 海面利用指導調整事業	決算見込額 2,973 千円
		<p>実施計画</p> <p>海や浜辺の賢明な利用に関するルールづくりに向けて、地域協議の場の設置のための調整を行います。また、水産資源の持続的利用を目的とした既存ルールの周知を徹底するため、関係機関等と連携してチラシの配布や現地指導等を行います。</p>	
		<p>事業の実施結果・評価</p> <p>1 ルールづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ルールづくり検討・調整の前段として、事例収集を行いました。(全国アマモサミット) 内部検討の段階なので、住民参加・情報公開までには至りませんでした。 <p>2 海面利用指導調整事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 「千葉県海面利用協議会」の開催 2回 「海面利用協議会」推奨ルールの周知：ポスターの作成・配布2,000枚、チラシの作成・配布30,000枚 立看板の設置による海面利用ルールの周知：立看板の設置20本 東京湾北部漁場の指導・監視：船舶による指導・監視3回 	
		21年度 (事業名) 海面利用指導調整事業	当初予算額 2,831 千円
		<p>実施計画</p> <p>護岸管理等についての地元の調整状況を見ながら、海や浜辺の賢明な利用に関するルールづくりに向けて、地域協議の場の設定を進めます。</p> <p>また、水産資源の持続的利用を目的とした既存ルールの周知を徹底するため、関係機関等と連携してチラシの配布や現地指導等を行います。</p> <p>1 海面利用の調整指導</p> <ol style="list-style-type: none"> チラシ等による海面利用ルールの周知 アサリ漁場の指導・監視 	
		<p>事業の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 海面利用ルールのチラシ等については、9月に配布予定です。 東京湾北部漁場の指導・監視については、9月以降に実施予定です。 	

第8節 環境学習・教育

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況
事業名	事業内容	
1 環境学習・教育事業 【環境政策課】	<p>三番瀬環境学習施設等検討委員会での議論を参考にして、三番瀬に関する環境学習・教育を担う人材育成や環境学習・教育活動の支援に努めていきます。</p> <p>また、環境学習施設や環境学習の場については、三番瀬再生の全体構想の進捗を見極めつつ、様々な角度から検討を行います。</p> <p>なお、検討に当たっては、適宜、三番瀬環境学習施設等検討委員会に意見を求めています。</p>	<p>18年度 (事業名) 環境学習・教育事業 決算額 997 千円</p> <p>19年度 (事業名) 環境学習・教育事業 決算額 一千円</p> <p>20年度 (事業名) 環境学習・教育事業 決算見込額 1,591 千円</p>
		<p>実施計画</p> <p>今後も三番瀬環境学習施設等検討委員会を開催し、意見を聴きながら事業を進めます。</p> <p>また、19年度に策定した千葉県環境学習基本方針に基づき、環境学習指導者として活動している者のスキルアップを目指した体験型環境学習講座を開催するとともに、環境学習を推進するための情報をインターネットで提供するシステムの構築に着手します。</p>
<p>(事業計画における5か年の目標)</p> <p>三番瀬における環境学習・教育の実施</p>		<p>事業の実施結果・評価</p> <p>1 三番瀬環境学習施設等検討委員会 開催2回、平成21年度の三番瀬再生実施計画の作成</p> <p>2 スキルアップ講座の開催 (9/27 船橋三番瀬海浜公園)</p> <p>3 環境学習関係情報の収集、整理、入力</p>
		<p>21年度 (事業名) 環境学習・教育事業 当初予算額 2,902 千円</p>
		<p>実施計画</p> <p>千葉県環境学習基本方針に基づき、20年度から実施している環境学習指導者向けのスキルアップ講座の更なる充実に努めるとともに、環境学習を推進するための情報をインターネットで提供するシステムの運用を開始します。</p> <p>さらに、三番瀬の環境について、県民に理解を深めてもらうため、県民環境講座を開催します。</p> <p>なお、環境学習施設や環境学習の場については、三番瀬再生の全体構想の進捗を見極めつつ、適宜、三番瀬環境学習施設等検討委員会に意見を求めながら、慎重に検討を行います。</p> <p>1 三番瀬再生に係る環境学習検討事業 三番瀬環境学習施設等検討委員会の開催</p> <p>2 環境学習基本方針推進事業 指導者対象のスキルアップ講座、一般県民対象の県民環境講座の開催</p> <p>3 環境学習情報提供システム構築事業 環境学習に係る情報(人材、教材、プログラム等)を提供するシステムの構築</p>
		<p>事業の進捗状況</p> <p>1 三番瀬環境学習施設等検討委員会の開催 (7/31)</p> <p>2 スキルアップ講座の開催 (10月開催予定)</p> <p>3 県民環境講座開催に向けたNPO等の公募 (5月25日～7月15日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 三番瀬については、応募者がありませんでした。 NPO等を公募し、地域教材作成事業を実施します。 <p>4 環境学習情報提供システムの供用開始 (4月～)</p>

第9節 維持・管理

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
1 三番瀬人材バンク事業 【地域づくり推進課】 (事業計画における5か年の目標) 三番瀬人材バンクの創設	多くの県民の参加と協力のもとで三番瀬の再生を進めるため、再生に協力いただける方々を人材として登録し、再生事業に協力いただくことが必要です。 そこで、人材バンクに登録する人材の確保に努め、利用促進に取り組みます。	18年度 (事業名) —	決算額 — 千円
		19年度 (事業名) —	決算額 — 千円
		20年度 (事業名) —	決算見込額 — 千円
		実施計画 地元市やNPOなどからの依頼に基づき人材を派遣する「三番瀬人材バンク」の創設に向けた準備・検討を地元市やNPOなど関係者と連携して進めます。	
		事業の実施結果・評価 類似事例を参考として情報収集し、三番瀬人材バンクの枠組みについて検討しました。	
		21年度 (事業名) —	当初予算額 — 千円
		実施計画 地元市、NPOなどと具体的な協議を進め、地元市やNPOなどからの依頼に基づき人材を派遣する「三番瀬人材バンク」を創設します。	
		事業の進捗状況 人材バンクについて、必要とされる場面や人材、また人材バンクとしてどのようなあり方が望ましいのか、一般県民の意見を聞きながら具体的に検討します。	

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
2 三番瀬パスポート制度(仮称) 【地域づくり推進課】 (事業計画における5か年の目標) 三番瀬における地域協働の促進のための手法の検討	三番瀬の再生に関わる地域住民や漁業者、NPO等の協働を促進することが必要です。 そこで、三番瀬パスポート制度(仮称)の導入に向けた小規模な実証試験を継続的な実施を検討します。	18年度 (事業名) —	決算額 — 千円
		19年度 (事業名) —	決算額 — 千円
		20年度 (事業名) —	決算見込額 — 千円
		実施計画 広域的な地域協働につなげるための 三番瀬パスポート制度(仮称)の手法についての検討を行います。	
		事業の実施結果・評価 インターネット、刊行物等により、「地域通貨モデルシステム」等の類似事例の収集を行い、パスポート事業の進め方について検討しました。	
		21年度 (事業名) —	当初予算額 — 千円
		実施計画 三番瀬パスポート制度(仮称)の導入に向けた小規模な実証試験を実施します。 1 勉強会の開催 2 実証試験の実施	
		事業の進捗状況 御菜浦・ふなばし港まつり実行委員会の協力により、ふなばし港まつりの来場者や三番瀬キッズ見学会等への参加者を対象とした小規模な実証試験について実施を検討します。	

第9節 維持・管理

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
3 三番瀬の維持・管理活動の支援 【地域づくり推進課】	三番瀬の再生を推進するためには、地元市や地域住民等による維持・管理活動との連携が必要です。 そこで、地元市や地域住民が行なう三番瀬の維持・管理活動について、支援のニーズを把握しながら、三番瀬再生支援事業補助金による財政的支援を行うなど、引き続き適切に支援していきます。	18年度 (事業名) —	決算額 - 千円
		19年度 (事業名) —	決算額 - 千円
(事業計画における5か年の目標) 三番瀬における維持・管理活動の支援の継続		20年度 (事業名) —	決算見込額 - 千円
		実施計画 地元市や地域住民が行なう三番瀬の維持・管理活動について、支援のニーズを把握しながら、引き続き適切に支援していきます。	
		事業の実施結果・評価 ・地域住民が主体となった実施する三番瀬クリーンアップ大作戦に対し後援を行いました。 ・三番瀬再生活動への支援として「三番瀬再生支援事業」の補助メニューとしました。(20年度は、維持・管理のみを直接の事業とする補助申請はありませんでしたが、補助事業の一において、事業の一環として清掃活動が行われました。)	
		21年度 (事業名) —	当初予算額 - 千円
		実施計画 地元市や地域住民が行なう三番瀬の維持・管理活動について、支援のニーズを把握しながら、広報協力等を行う他、必要に応じ三番瀬再生支援事業補助金による財政的支援を行うなど、引き続き適切に支援していきます。 1 県ホームページや県三番瀬サテライトオフィスを活用した事業についての広報活動等の支援 2 三番瀬再生支援事業補助金による財政的支援	
		事業の進捗状況 団体の要望に応じ広報協力等を進めるとともに、三番瀬再生支援事業補助金については、維持・管理に関連のある広報的事業について、補助金交付対象としています。	

第9節 維持・管理

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
4 ビオトープネットワーク事業 【自然保護課】	学校等を中心として、「上流から三番瀬までの命のつながり」をキーワードとした流域をつなぐビオトープネットワーク計画について、「三番瀬環境学習施設等検討委員会」の意見を聴きながら検討し、策定します。	18年度 (事業名) ビオトープネットワーク事業 決算額 一千円	
		19年度 (事業名) ビオトープネットワーク事業 決算額 一千円	
(事業計画における5か年の目標) 流域を含めた学校や公園緑地等を中心としたビオトープネットワーク計画の策定と展開		20年度 (事業名) ビオトープネットワーク事業 決算見込額 一千円	
		実施計画 学校等を中心として、「上流から三番瀬までの命のつながり」をキーワードとした流域をつなぐビオトープネットワーク計画について、「三番瀬環境学習施設等検討委員会」の意見を聴きながら検討します。	
		事業の実施結果・評価 (実施結果) 本事業の実施に当たっては、生物多様性ちば県戦略における事業との連携の検討が終わらなかったため、「三番瀬環境学習施設等検討委員会」での意見を聴くには至りませんでした。 (結果の評価) 生物多様性ちば県戦略における事業との連携の検討を進めましたが、「三番瀬環境学習施設等検討委員会」で意見を聴くには至りませんでした。	
		21年度 (事業名) ビオトープネットワーク事業 当初予算額 一千円	
		実施計画 学校等を中心として、「上流から三番瀬までの命のつながり」をキーワードとした流域をつなぐビオトープネットワーク計画について、「三番瀬環境学習施設等検討委員会」の意見を聴きながら検討します。	
		事業の進捗状況 「三番瀬環境学習施設等検討委員会」で検討するための資料作成を進め、ビオトープネットワークについて検討を行う予定です。	

第9節 維持・管理

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況
事業名	事業内容	
5 モニタリング方法、指標づくりの検討事業 【自然保護課】 (事業計画における5か年の目標) モニタリング・マニュアルの作成	三番瀬の自然環境に関するモニタリング調査を進める場合、調査結果を有効に活用できるようにするには、観察の方法や記録を統一することが必要です。 そこで、関係自治体、NPOなどにモニタリングマニュアルを周知し、三番瀬のモニタリングについて、多くの人々の参加を促進します。	18年度 (事業名) モニタリング方法、指標づくりの検討事業 決算額 一千円
		19年度 (事業名) モニタリング方法、指標づくりの検討事業 決算額 一千円
		20年度 (事業名) モニタリング方法、指標づくりの検討事業 決算見込額 一千円
		実施計画 関係自治体、NPOなどにモニタリングマニュアルを周知し、三番瀬のモニタリングについて、多くの人々の参加を促進します。
		事業の実施結果・評価 (実施結果) 三番瀬自然環境合同調査等において、モニタリングマニュアルを活用しました。 (結果の評価) 「モニタリング方法、指標づくりの検討事業」は、当初予定どおりの事業量を達成しました。
		21年度 (事業名) モニタリング方法、指標づくりの検討事業 当初予算額 一千円
		実施計画 関係自治体、NPOなどにモニタリングマニュアルを周知し、三番瀬のモニタリングについて、多くの人々の参加を促進します。
		事業の進捗状況 三番瀬自然環境合同調査において、モニタリングマニュアルを活用しました。

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況
事業名	事業内容	
6 三番瀬自然環境合同調査実施事業 【自然保護課】 (事業計画における5か年の目標) 三番瀬自然環境合同調査の実施	三番瀬の再生には、多くの人々がいろいろな形で参加することが必要です。 そこで、特殊な器具や能力を必要とせず、多少の訓練を行えば誰もができ、かつ、一定の水準を具えた調査結果が得られる合同調査を、県民、NPOなどを公募して行います。	18年度 (事業名) 三番瀬自然環境合同調査実施事業 決算額 139 千円
		19年度 (事業名) 三番瀬自然環境合同調査実施事業 決算額 57 千円
		20年度 (事業名) 三番瀬自然環境合同調査実施事業 決算見込額 320 千円
		実施計画 特殊な器具や能力を必要とせず、多少の訓練を行えば誰もができ、かつ、一定の水準を具えた調査結果が得られる合同調査を、県民、NPOなどを公募して行います。
		事業の実施結果・評価 (実施結果) 年2回実施し、報告書を作成しました。 (結果の評価) 本調査を通じて、三番瀬の底生生物や自然環境への理解を深めることができました。
		21年度 (事業名) 三番瀬自然環境合同調査実施事業 当初予算額 325 千円
		実施計画 特殊な器具や能力を必要とせず、多少の訓練を行えば誰もができ、かつ、一定の水準を具えた調査結果が得られる合同調査を、県民、NPOなどを公募して行います。
		事業の進捗状況 第1回現地調査を6月7日(日)に実施しました。参加者は25名でした。 第2回現地調査は、9月5日(土)に実施する予定です。

第9節 維持・管理

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
7 三番瀬自然環境データベース構築事業 【自然保護課】	<p>三番瀬の再生に当たっては、三番瀬の環境の現状や推移を的確に把握するとともに、再生事業の実施に係る順応的な管理を行うことが必要です。</p> <p>そこで、情報の効率的な活用を目的として構築したデータベースに三番瀬自然環境調査等のデータの追加を行うなどの維持作業を行います。</p> <p>1 データの追加 21年度三番瀬自然環境調査等のデータを追加します。</p> <p>(1) 中層大型底生生物調査 (2) 付着生物調査 (3) 藻類調査 (4) 空中写真等撮影</p>	18年度 (事業名) 三番瀬自然環境データベース構築事業 決算額 1,082千円	
		19年度 (事業名) 三番瀬自然環境データベース維持事業 決算額 788千円	
(事業計画における5か年の目標) 自然環境データベースの構築及び更新		20年度 (事業名) 三番瀬自然環境データベース維持事業 決算見込額 788千円	
		<p>実施計画 情報の効率的な活用を目的として構築したデータベースに三番瀬自然環境調査等のデータの追加を行うなどの維持作業を行います</p> <p>1 データの追加 19年度三番瀬自然環境調査のデータを追加します。 (1) 海生生物現況調査(魚類着底状況) (2) 鳥類生息状況調査 ・鳥類個体数経年調査 ・鳥類行動別個体数調査 ・スズガモ、カワウ食性調査</p>	
		<p>事業の実施結果・評価 (実施結果) ・「平成19年度三番瀬海生生物現況調査(魚類着底状況)報告書」のデータを追加しました。 ・「平成19年度三番瀬鳥類行動別個体数調査報告書」のデータを追加しました。 ・「平成19年度三番瀬スズガモ・カワウ食性等調査報告書」のデータを追加しました。 ・「平成19年度三番瀬鳥類個体数経年調査報告書」のデータを追加しました。</p> <p>(結果の評価) 「三番瀬自然環境データベース構築事業」は、当初予定どおりの事業量を達成しました。</p>	
		21年度 (事業名) 三番瀬自然環境データベース維持事業 当初予算額 822千円	
		<p>実施計画 三番瀬の再生に当たっては、三番瀬の環境の現状や推移を的確に把握するとともに、再生事業の実施に係る順応的な管理を行うことが必要です。</p> <p>そこで、情報の効率的な活用を目的として構築したデータベースに三番瀬自然環境調査等のデータの追加を行うなどの維持作業を行います。</p> <p>1 データの追加 20年度三番瀬自然環境調査のデータを追加します。 (1) 水環境モニタリング調査 (2) 深淺測量</p>	
		<p>事業の進捗状況 データの追加業務は、委託により11月ごろに実施予定です。</p>	

第10節 再生・保全・利用のための制度及びラムサール条約への登録促進

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
1 三番瀬の再生・保全・利用のための条例の制定 【地域づくり推進課】 (事業計画における5か年の目標) 条例制定に向けた取組	三番瀬の再生・保全には長期的な取組が必要とされています。 そこで、この取組を支えるために、三番瀬の再生・保全・利用等の枠組みを明確にする条例の制定に向けて、近時の立法等を踏まえた条例内容の検討を進めます。 また、条例についての一般県民の理解を深めるため、実施計画第11節「広報」に掲げてある各種事業等との連携を図ります。	18年度 (事業名) —	決算額 - 千円
		19年度 (事業名) —	決算額 - 千円
		20年度 (事業名) —	決算見込額 - 千円
		実施計画 この取組を支えるために、三番瀬の再生・保全・利用等の枠組みを明確にする条例の制定に向けて、条例案を検討し、既存法令との関係の調整等に取り組みます。 1 条例案の具体的検討 2 関係法令との関係の整理・調整 条例案に関連する最新関係法令との関係の整理・調整等を行います。 3 関係機関等との協議・調整 国、地元市、庁内関係部局等との協議・調整に取り組みます。 4 類似立法についての情報収集 海洋基本法を始め、内容等が類似・関連する立法の動向について情報収集を行い、問題点等を整理します。	
		事業の実施結果・評価 「条例要綱案」について、用語の精緻な検討等を進めるとともに、三番瀬再生会議ワーキンググループでの検討のため、過去の経緯等の情報を収集・整理する他、立法過程論からの検討を進めました。 また、政策法務に係る立法技術についての情報収集や海洋基本法、生物多様性基本法等、三番瀬に関連する最新立法の情報収集を行いました。	
		21年度 (事業名) —	当初予算額 - 千円
		実施計画 この取組を支えるために、三番瀬の再生・保全・利用等の枠組みを明確にする条例の制定に向けて、近時の立法等を踏まえた条例内容の検討を進めます。また、条例についての一般県民の理解を深めるため、実施計画第11節「広報」に掲げてある各種事業等との連携についての検討も進めます。 1 条例案の具体的検討 2 関係法令との関係の整理・調整 3 関係機関等との協議・調整 4 類似立法についての情報収集 海洋基本法や生物多様性基本法等、内容等が類似・関連する立法の動向について情報収集を行い、問題点等を整理します。 5 条例についての一般県民の理解を深めるための広報手法等の検討	
		事業の進捗状況 生物多様性基本法や海岸漂着物処理推進法等について情報収集や問題点の検討等を行っています。また、地域づくり推進課において実施する広報事業との連携方法等についての検討を進めています。	

第10節 再生・保全・利用のための制度及びラムサール条約への登録促進

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況			
事業名	事業内容				
2 ラムサール条約への登録促進 【自然保護課】	谷津干潟と三番瀬との連携を考慮したラムサール条約登録に向けての合意形成が図られるよう、地域住民をはじめ、関係者・関係機関との協議・調整を進めます。	18年度	(事業名) ラムサール条約への登録促進	決算額	一千円
		19年度	(事業名) ラムサール条約への登録促進	決算額	一千円
		20年度	(事業名) ラムサール条約への登録促進	決算見込額	一千円
(事業計画における5か年の目標) 三番瀬のラムサール条約への登録について関係者の合意形成		実施計画 谷津干潟と三番瀬との連携を考慮したラムサール条約への登録について、地域住民をはじめ、関係者・関係機関との協議・調整を進めます。			
		事業の実施結果・評価 (実施結果) ・ワーキンググループによる会議を開催し、ラムサール条約登録の促進に向けての課題を整理しました。 (会議開催：2回) ・三番瀬の部分的・段階的なラムサール条約へ登録についても、一つの選択肢として検討しました。 ・漁業関係者とラムサール条約の趣旨、規制内容等についての勉強会・意見交換会を実施しました。 (勉強会・意見交換会：4回) (結果の評価) ・関係者の合意は得られませんでした。			
		21年度	(事業名) ラムサール条約への登録促進	当初予算額	一千円
		実施計画 谷津干潟と三番瀬の連携を考慮したラムサール条約登録に向けての合意形成が図られるよう、地域住民をはじめ、関係者・関係機関との協議・調整を進めます。			
		事業の進捗状況 前年度に引き続き、条約登録は時期尚早との意見を持つ漁業関係者と話し合いを進めています。 (現在まで延べ2回の意見交換を実施。今後日程調整が出来たい実施予定。)			

第11節 広報

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
1 インターネットなどによる情報発信 【地域づくり推進課】 (事業計画における5か年の目標) わかりやすい情報の発信	三番瀬の再生には幅広い県民の理解と協力が必要です。 そこで、三番瀬に関する各種情報やクリーンアップ活動等の再生に向けた様々な取組について、最新の情報を広く継続的に発信していきます。	18年度	三番瀬ライブカメラ設置・運用事業 決算額 648千円
		19年度	三番瀬国際フォーラム開催事業 三番瀬ライブカメラ設置・運用事業 決算額 4,489千円 決算額 646千円
		20年度	三番瀬ライブカメラ設置・運用事業 決算見込額 647千円
		実施計画 三番瀬に関する各種情報やクリーンアップ活動等の再生に向けた様々な取組について、最新の情報を広く継続的に発信します。 1 県ホームページ(三番瀬コーナー)の更新 2 県民だより、テレビ・ラジオによる県の広報番組等を活用した情報発信 ふなばし三番瀬海浜公園に設置した三番瀬ライブカメラの保守・管理を適切に行い、三番瀬の海や干潟、渡り鳥の姿等映像を、インターネットを利用して誰でもリアルタイムで見ることができるようにします。	
		事業の実施結果・評価 1 インターネットなどによる情報発信 ・県ホームページ(三番瀬コーナー)の更新を適切に実施しました。計73回更新 ・再生会議や各種事業の告知等を、県民だより、テレビ等による県の広報番組等を活用して実施しました。 2 三番瀬ライブカメラ設置・運用事業 ・適正な維持・管理を実施し、計25,652回のアクセスがありました。 最新情報を遅滞なく掲載するとともに、ライブカメラの適正管理を行い、三番瀬への関心を高める効果がありました。	
		21年度	インターネットなどによる情報発信 三番瀬ライブカメラ設置・運用事業 当初予算額 ー千円 当初予算額 659千円
		実施計画 三番瀬に関する各種情報やクリーンアップ活動等の再生に向けた様々な取組について、最新の情報を広く継続的に発信していきます。 1 県ホームページ(三番瀬コーナー)の維持・更新 2 県民だより、テレビ・ラジオによる県の広報番組、他県内メディア等を活用した情報発信を行います。 3 三番瀬に対する県民の関心を高めるために設置した三番瀬ライブカメラの継続的な維持・管理を行います。	
		事業の進捗状況 ・ホームページの更新作業を随時実施しています。 ・三番瀬再生会議の開催告知を県民だよりに掲載しました。 ・ライブカメラの運用管理を随時実施しています。	

第11節 広報

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
2 広報拠点活用事業 【地域づくり推進課】	<p>三番瀬への関心と理解を深めるためには、三番瀬再生会議や三番瀬の自然環境等に関する資料の展示・閲覧等により、広く県民に情報提供を行うことが必要です。</p> <p>そこで、三番瀬サテライトオフィスの従来通りの活動も継続しながら斬新な企画づくりを積極的に行います。また委託内容の見直しなどを行い、効果的な広報に努めます。</p>	18年度 (事業名) サテライトオフィス運営委託事業 決算額 6,641 千円	
		19年度 (事業名) サテライトオフィス運営委託事業 決算額 6,437 千円	
(事業計画における5か年の目標) 広報拠点の充実		20年度 (事業名) サテライトオフィス運営委託事業 決算見込額 6,400 千円	
		<p>実施計画</p> <p>船橋フェイスビル（船橋駅南口）に設置している三番瀬サテライトオフィスにおける資料展示について一層の工夫・充実を図るなど、広報拠点としての魅力の向上に取り組みます。</p> <p>また、その運営については、企画の提案について広く公募を実施した上で、県民参加による再生の取組の一環としてNPOなどに委託します。</p>	
		<p>事業の実施結果・評価</p> <p>ホームページ等による三番瀬サテライトオフィスの広報・PRに努めるとともに、各種資料の展示・閲覧・説明、各種ビデオの備え付け・視聴等により魅力ある運営に努めました。</p> <p>三番瀬サテライトオフィスへの訪問者数は、10,653人と前年度から引き続き1万人を超えています。</p>	
		21年度 (事業名) サテライトオフィス運営委託事業 当初予算額 6,400 千円	
		<p>実施計画</p> <p>船橋フェイスビル（JR船橋駅南口）内にある三番瀬サテライトオフィスにおける各種資料の展示・閲覧等になお一層の工夫・充実を図り、一般の方々への三番瀬への関心が広まっていくための広報拠点としての魅力の一層の向上に取り組みます。</p> <p>また、その運営については、企画の提案について広く公募を実施した上で、県民参加による再生の取組の一環としてNPOなどに委託します。</p>	
		<p>事業の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真展の企画やレイアウトの見直しなど、魅力アップに努めています。 ・また、エコメッセ2009inちば（9月6日（日）幕張メッセ）に、サテライトオフィスとして出展し、三番瀬のPRを行います。 	

第11節 広報

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
3 三番瀬フェスタ開催事業 【地域づくり推進課】	<p>三番瀬への関心と理解を深めるためには、NPOなどが開催する事業に対し、財政的に支援していくことが必要です。</p> <p>そこで、三番瀬の状況を多くの方に紹介し、再生への理解と参加を促すため、NPOなどが開催する三番瀬フェスタについて、三番瀬再生支援事業を活用して支援を行います。</p>	18年度 (事業名) 三番瀬フェスタ開催事業	決算額 2,800 千円
		19年度 (事業名) 三番瀬再生支援事業	決算額 1,000 千円
(事業計画における5か年の目標) 三番瀬フェスタの開催		20年度 (事業名) 三番瀬再生支援事業	決算見込額 1,000 千円
		実施計画	
		<p>三番瀬の状況を多くの方に紹介し、再生への理解と参加を促すため、NPOなどが開催する三番瀬フェスタについて、三番瀬再生支援事業を活用して支援を行います。</p>	
		事業の実施結果・評価	
		<p>三番瀬再生支援事業補助金 (1,000 千円 (後掲事業の内数)) 市民団体が20年10月に開催した事業1件に対して、三番瀬再生支援事業補助金により財政支援を行いました。</p>	
		21年度 (事業名) 三番瀬再生支援事業	当初予算額 2,000 千円の内数 (次項参照)
		実施計画	
		<p>三番瀬の状況を多くの方に紹介し、再生への理解と参加を促すため、NPOなどが開催する三番瀬フェスタについて、三番瀬再生支援事業を活用して支援を行います。</p> <p>1 三番瀬再生支援事業補助金による財政的支援 2 事業に係る広報活動の支援</p>	
		事業の進捗状況	
		<p>市民団体が21年10月に実施を予定している事業に対して、三番瀬支援事業補助金の交付決定を行いました。</p>	

第11節 広報

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
4 三番瀬再生活動への支援 【地域づくり推進課】	<p>三番瀬の再生には、地域活動の担い手の育成とそれらの地域活動へ多くの地域住民・県民が参加し、協働して取り組んでいくことが必要です。</p> <p>そこで、NPOなどが実施するシンポジウムや視察会等の多様な再生事業への取組に要する経費の一部を県が補助する制度を継続して設けるとともに、県民参加を促す広報を行います。</p>	18年度 (事業名) —	決算額 - 千円
		19年度 (事業名) 三番瀬再生支援事業	決算額 1,473 千円
(事業計画における5か年の目標) NPOによる再生事業への支援と県民参加に向けた広報		20年度 (事業名) 三番瀬再生支援事業	決算見込額 1,850 千円
		<p>実施計画</p> <p>NPOなどが実施するシンポジウムや視察会等の多様な再生事業への取組に要する経費の一部を県が補助する制度を継続して設けるとともに、県民参加を促す広報を行います。</p> <p>1 補助対象 継続的、自発的に三番瀬再生に役立つ活動を行う特定非営利活動法人及び社会貢献活動を行っている非営利の任意団体</p> <p>2 補助対象の活動 (1) 多くの県民の参加を得て行われる活動で、以下のもの ・三番瀬の再生、維持管理に関する催し ・三番瀬に関する環境学習活動 ・三番瀬に関する広報活動 (2) その他、県が認める三番瀬の再生に役立つ活動</p> <p>3 補助率 補助対象経費の1/2以内</p>	
		<p>事業の実施結果・評価</p> <p>三番瀬再生支援事業補助金 (1,850 千円) 3団体に対して、総額1,850千円の補助金を交付しました。 最終的な交付金額は予算額を下回りましたが、3団体の多様な事業に対し交付を行い、交付事務についても予定通りに進めることができました。</p>	
		21年度 (事業名) 三番瀬再生支援事業	当初予算額 2,000 千円
		<p>実施計画</p> <p>NPOなどが実施するシンポジウムや視察会等の多様な再生事業への取組に要する経費の一部を県が補助する制度を継続して設けるとともに、補助事業を通じて、20年度に策定した三番瀬マスコットキャラクターの普及等、県民参加を促す広報を行います。</p> <p>1 三番瀬再生支援事業補助金による財政的支援 2 事業に係る広報活動の支援</p>	
		<p>事業の進捗状況</p> <p>団体によるプレゼンテーション、選考会議を経て、7月21日付けで3団体200万円の交付決定を行いました。今後は、各交付団体と連携しながら、適切に事業を推進します。</p>	

第11節 広報

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
5 三番瀬再生クラブ(仮称)の設立 【地域づくり推進課】	多くの県民や企業の参加のもとで三番瀬の再生を進める必要があります。 そこで、環境問題に協力的な団体・企業や個人などと連携し、具体的な検討・準備を行います。	18年度 (事業名) —	決算額 —千円
		19年度 (事業名) —	決算額 —千円
(事業計画における5か年の目標) 三番瀬再生クラブ(仮称)の設立		20年度 (事業名) —	決算見込額 —千円
		実施計画 地域の住民・企業をはじめ、県民や県内企業等が集う「三番瀬再生クラブ(仮称)」の設立のための具体的な枠組みを定め、関係者との協議のもと、設置に向けた準備を行ないます。	
		事業の実施結果・評価 ・都内の3事例について視察をしました(3件) ・三番瀬再生クラブ素案となりうる枠組みについて検討しました。 いくつかの参考事例を情報収集し、検討の材料としましたが、直接的に三番瀬再生クラブの枠組みに適用できそうな事例は把握できませんでした。収集した事例も参考にしながら枠組みの案を検討したものの、具体的な案として公表できる段階までは至りませんでした。	
		21年度 (事業名) —	当初予算額 —千円
		実施計画 地域の住民・企業をはじめ、県民や県内企業等が集う「三番瀬再生クラブ(仮称)」の設立をめざし、環境問題に協力的な企業や、これまで県が行なった再生事業に参加した個人など、幅広い関係者の協力を得ながら、具体的な検討・準備を行ないます。 1 「三番瀬再生クラブ設立企画会議(仮称)」の設置 2 「再生クラブ」の具体的組織構成案の検討	
		事業の進捗状況 一般県民の意見を取り入れながら、組織のあり方について検討を行います。	

第11節 広報

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況	
事業名	事業内容		
6 三番瀬再生キッズ育成事業 【地域づくり推進課】 (事業計画における5か年の目標) 三番瀬再生キッズへの支援	<p>三番瀬の再生には地域の子供たちが三番瀬に愛着を持って関わり、その活動を世代を超えた息の長い取組へとつなげていく必要があります。</p> <p>そこで、地元の小学生による三番瀬の再生につながる自主活動促進の契機となるよう、夏期に三番瀬を研究・体験してもらう機会を設ける他、事業に対する具体的なニーズの調査等を実施します。</p> <p>また、三番瀬再生支援事業補助金により、NPO等が実施することも向け事業の支援を行います。</p>	<p>18年度 (事業名) — 決算額 - 千円</p> <p>19年度 (事業名) — 決算額 - 千円</p> <p>20年度 (事業名) 三番瀬再生キッズ・三番瀬再生標語等制定事業 決算見込額 568千円の内数</p> <p>実施計画</p> <p>地元の小学生による三番瀬の再生につながる自主活動促進の契機となるよう、夏期に三番瀬を研究・体験してもらう機会を設ける他、事業に対する具体的なニーズの調査等を実施します。</p> <p>1 バスによる夏期三番瀬見学会</p> <p>(1) 小学生親子を対象とする、三番瀬視察・見学(ふなばし海浜公園等)</p> <p>(2) 専門家(三番瀬に詳しい人物)によるレクチャー(バスの中及び三番瀬)</p> <p>(3) 児童・保護者に対するアンケート調査</p> <p>2 参加児童による各学校での見学成果発表等(自由研究の発表等として)</p> <p>3 参加保護者による21年度以降の事業の方向性の検討</p> <p>事業の実施結果・評価</p> <p>1 バスによる夏期三番瀬見学会</p> <p>20年8月に2回、小学生親子等を対象とする見学会を実施しました。</p> <p>2 参加児童による見学成果発表</p> <p>三番瀬サテライトオフィスにおいて作品の展示を実施しました。</p> <p>3 参加保護者による21年度以降の事業の方向性についての検討</p> <p>事業の今後のあり方について意見を徴し、概ね肯定的な意見を得ました。</p> <p>主要事業である見学会については、県内小学生親子等、約30名の参加を得て、2回の内1回は雨天となりましたが、概ね予定通りの事業を実施しました。</p>	
		<p>21年度 (事業名) 三番瀬再生キッズ・三番瀬再生標語等普及事業 当初予算額 300千円の内数</p> <p>実施計画</p> <p>地元の小学生による三番瀬の再生につながる自主活動促進の契機となるよう、前年度同様、夏期に三番瀬を研究・体験してもらう機会を設ける他、事業に対する具体的なニーズの調査等を実施します。</p> <p>また、三番瀬再生支援事業補助金により、NPO等が実施することも向け事業の支援を行います。</p> <p>1 バスによる夏期三番瀬見学会</p> <p>2 児童・保護者に対するアンケート調査や次年度事業の方向性の検討</p> <p>3 参加児童による各学校での見学成果発表等(自由研究の発表等として)及び作品の展示</p> <p>事業の進捗状況</p> <p>8月8・23日に約40名の参加を得て、バスによる夏期三番瀬見学会を実施しました。今後は、参加者による見学成果の発表等が行われることとなります。なお、準備や当日の運営については、漁業関係者や一般県民、NPO関係者の協力を得て進めるとともに、実施日程の決定については、県教育庁や関係市と調整を行いました。</p>	

第11節 広報

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況
事業名	事業内容	
7 三番瀬再生の広報に係る標語・図案等の検討 【地域づくり推進課】	多くの取り組み主体がシンボルマーク等を使用し、効果的なPR活動を行えるよう努めます。	18年度 (事業名) - 決算額 - 千円
		19年度 (事業名) - 決算額 - 千円
(事業計画における5か年の目標) 三番瀬再生の広報に係る標語・図案等の検討		20年度 (事業名) 三番瀬再生キッズ・三番瀬再生標語等制定事業 決算見込額 568千円の内数 <u>実施計画</u> NPOなどによる多様な取組を支援し、県民や企業の参加を促進するため、三番瀬の再生に係る様々な分野の人々が共通に使える標語(キャッチコピー)・図案(シンボルマークなど)について、公募により決定するとともに、今後の活用方法や効果等について検討します。
		<u>事業の実施結果・評価</u> 1 標語193件、シンボルマーク55件、キャラクター110件の応募があり、それぞれ最優秀賞1点、優秀賞2点を選定しました。 2 受賞作品は、県の媒体で公表するだけでなく、雑誌や環境系ホームページなどの各種媒体で紹介されました。 3 シールの作成(3000枚)、県庁名刺作成システムへの登録、市川塩浜護岸工事現場の看板に掲示するなど活用を進めています。
		21年度 (事業名) 三番瀬再生キッズ・三番瀬再生標語等普及事業 当初予算額 300千円の内数 <u>実施計画</u> NPOなどによる多様な取組を支援し、県民や企業の参加を促進するため、公募により決定した、三番瀬の再生に係る様々な分野の人々が共通に使える標語(キャッチコピー)、シンボルマーク、マスコットキャラクターについて、地元4市、NPOなどと連携し、今後の活用方法や効果等について検討の上、普及活動を進めます。
		<u>事業の進捗状況</u> シールの配布や印刷物での利用など、関連事業でも活用しています。環境関係のイベントで使用できるよう、標語やキャラクターを用いたのぼりを作成しています。県主催以外の場合でも貸し出しするなど広く活用していきます。 新聞紙上で「はげちゃん」が取り上げられるなど、徐々に知名度も上がっています。

第12節 東京湾の再生につながる広域的な取組

平成22年度事業の方向性		(参考) 事業の進捗状況
事業名	事業内容	
1 国、関係自治体等との連携による広域的な取組 【水質保全課・地域づくり推進課】	東京湾の再生には、汚濁負荷量の削減による水質改善をはじめとする様々な対策が必要です。 そこで、これまで以上に河川流域や東京湾周辺の自治体と連携して、広域的な取組を行います。	18年度 (事業名) — 決算額 — 千円
		19年度 (事業名) 八都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会運営事業 決算額 17 千円
(事業計画における5か年の目標) 東京湾の再生につながる広域的な取組		20年度 (事業名) — 決算見込額 — 千円
		実施計画 これまで以上に河川流域や東京湾周辺の自治体と連携して、広域的な取組を行います。 1 第6次東京湾総量削減計画の推進 2 八都県市首脳会議による取組 東京湾の底質改善対策の基礎資料を得るため、引き続き、底質調査結果を取りまとめると共に、東京湾の富栄養化対策に関する事項について情報交換を行うと共に、新たな取組手法等について検討します。 3 東京湾岸自治体環境保全会議による取組 4 東京湾再生のための行動計画との連携 事業の実施結果・評価 1 1都3県が連携し、第6次総量削減計画の諸施策を着実に実施しました。 2 東京湾水質改善に関する一斉行動として、国等と共同で東京湾水質一斉調査及び啓発活動を実施しました。(リーディンググループ 5回、部会 2回) 3 関係機関とともに研修会等を開催し、環境保全に係る啓発を行いました。(幹事会 4回、総会 1回、研修会 1回) 4 陸域の汚濁負荷削減対策や一層効率的なモニタリング体制について検討を行いました。(幹事会 1回、分科会 2回開催) 東京湾周辺自治体と連携して、東京湾の再生につながる広域的な取組が図られた。
		21年度 (事業名) — 当初予算額 — 千円
		実施計画 これまで以上に河川流域や東京湾周辺の自治体と連携して、広域的な取組を行います。 1 第6次東京湾総量削減計画の推進 19年度に策定した東京湾総量削減計画に基づき、河川流域や東京湾周辺の自治体と連携して、広域的な取組を行います。 2 八都県市首脳会議による取組 第6次総量削減計画の円滑な推進手法などの情報交換を行うとともに、「東京湾水質一斉調査」を継続して行うことで東京湾に関する情報収集、啓発活動を行い、水質改善対策に関する検討を進める。また、底質改善対策等の効果を検証するため、各自治体からの底質調査結果を収集し、取りまとめる。 3 東京湾岸自治体環境保全会議による取組 東京湾の水質浄化を図るため、引き続き、広域的な対策と湾岸住民への環境保全に係る啓発について協議し、総合的・広域的な環境調査や技術・情報等の交流(イベント、シンポジウム等の開催)、東京湾に関する情報収集・提供など普及啓発を行います。 4 東京湾再生のための行動計画との連携 18年度に取りまとめた第1回中間評価を踏まえ、関係機関と共に流域の汚濁負荷削減対策、海域浄化対策、海域環境のモニタリング等に取り組みます。

平成22年度事業の方向性	
	<p>(つづき)</p> <p>5 上記の取組に加え、各種シンポジウムなどにおいて、三番瀬の再生の取り組みを情報発信するとともに、国内他事例との意見交換や交流、河川上流との交流の強化等、広域的な連携を図るための広汎な取組を引き続き検討します。</p> <hr/> <p>事業の進捗状況</p> <p>国と八都県市の関係機関や臨海部に立地する企業や市民団体等が連携、協働し「東京湾水質一斉調査」を実施しました。(8月5日実施予定)</p> <p>また、東京湾岸自治体環境保全会議では、湾岸住民への環境保全の啓発イベント等を予定しています。</p>

【参考】

三番瀬再生計画(事業計画)記載事業一覧

No.	事業名	担当課
1	1-1 干潟的環境(干出域等)形成の検討・試験	地域づくり推進課(検討グループ)
2	1-2 淡水導入の検討・試験	〃
3	2-1 行徳湿地再整備事業	自然保護課
4	2-2 三番瀬自然環境調査事業	〃
5	2-3 生物多様性の回復のための目標生物調査事業	〃
6	3-1 豊かな漁場への改善方法の検討	水産課
7	3-2 アオサ対策	漁業資源課
8	3-3 藻場の造成試験	〃
9	3-4 ノリ養殖管理技術の改善	水産課、漁業資源課
10	3-5 高水温耐性ノリ品種の改良	漁業資源課
11	3-6 アサリの資源生態に関する総合調査	水産課
12	3-7 アサリ生産対策	水産課、漁業資源課
13	3-8 漁業者と消費者を結ぶ取組	水産課
14	4-1 海老川流域等の自然な水循環系の再生(1)	河川環境課
	4-1 海老川流域等の自然な水循環系の再生(2)	下水道課
15	4-2 三番瀬周辺の県の管理する河川再生の検討	河川環境課
16	4-3 合併処理浄化槽の普及	水質保全課
17	4-4 産業排水対策	〃
18	4-5 流域県民に対する啓発	〃
19	4-6 下水道の普及と高度処理	下水道課
20	4-7 都市河川における生態系に配慮した護岸整備	河川整備課
21	4-8 青潮関連情報発信事業	水質保全課・水産課
22	5-1 市川市塩浜護岸改修事業	河川整備課
23	5-2 護岸の安全確保の取組	地域づくり推進課・漁港課・河川整備課・河川環境課・港湾課・企業庁
24	5-3 自然再生(湿地再生)事業	地域づくり推進課(検討グループ)
25	6-1 三番瀬周辺区域における調和のとれたまちづくりの取組	県土整備政策課・都市計画課
26	7-1 ルールづくりの取組	地域づくり推進課・水産課
27	8-1 環境学習・教育事業	環境政策課
28	9-1 三番瀬人材バンク事業	地域づくり推進課
29	9-2 三番瀬パスポート制度(仮称)	〃
30	9-3 三番瀬の維持・管理活動の支援	〃
31	9-4 ビオトープネットワーク事業	自然保護課
32	9-5 モニタリング方法、指標づくりの検討事業	〃
33	9-6 三番瀬自然環境合同調査実施事業	〃
34	9-7 三番瀬自然環境データベース構築事業	〃
35	10-1 三番瀬の再生・保全・利用のための条例の制定	地域づくり推進課
36	10-2 ラムサール条約への登録促進	自然保護課
37	11-1 インターネットなどによる情報発信	地域づくり推進課
38	11-2 広報拠点活用事業	〃
39	11-3 三番瀬フェスタ開催事業	〃
40	11-4 三番瀬再生活動への支援	〃
41	11-5 三番瀬再生クラブ(仮称)の設立	〃
42	11-6 三番瀬再生キッズ育成事業	地域づくり推進課・教育政策課
43	11-7 三番瀬再生の広報に係る標語・図案等の検討	地域づくり推進課
44	12-1 国、関係自治体等との連携による広域的な取組	地域づくり推進課・水質保全課